同志社大学

スポーツ健康科学部

履修要項 2026

Faculty of Health and Sports Science

授業１週目（DO Week）と授業２週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り２週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業１週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスからURLを確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学HPに掲載していますので、以下のURL、QRコード等から詳細を確認してください。

また、授業２週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■DO Weekから始まる新たな学び
https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

「学則第９条の５対象」について

同志社大学学則第９条の５では、文部科学省令である大学設置基準に規定されている遠隔授業の卒業必要単位数への算入上限を規定しており、学修支援システムDUETやシラバスに掲載している「学則第９条の５対象」は、履修中の科目、または単位修得済の科目がその「対象」であるか「対象外」であるかを示すものです。

本学では、2023年度までは新型コロナウイルス感染症における特例措置等により、すべての科目を「学則第９条の５」の「対象外」としています。これにより、すべての修得単位が卒業必要単位数へ算入されるため、この表示に留意する必要はありませんでしたが、2024年度以降は特例措置の適用がなくなるため、この項目に留意して履修計画を立てる必要があります。

所属する学部によって卒業必要単位数への算入上限単位数が決まっており、各科目が「対象」か「対象外」かについてはシラバスで確認してください。詳細については以下URLまたはQRコードから確認してください。

■「学則第９条の５対象」について
https://duet-man.doshisha.ac.jp/student/article9-5.pdf

CONTENTS

1．スポーツ健康科学部カリキュラムの特徴 …… 6

2．科目履修について …… 8
学位の取得に必要なこと／単位制について／セメスター制について
スポーツ健康科学部授業科目について／「免許・資格関係科目」と「自由科目」について

3．科目登録について …… 12
登録単位数の上限／科目登録の方法

4．GPA制度による成績評価について …… 14
GPA制度の概要／履修中止制度／クレーム・コミッティ制度
追試験制度／成績評価結果の公表／科目担当者による授業講評／成績評価の書き換えについて
成績不振者への個別履修指導について

5．その他 …… 17
事務室について／授業時間・試験時間／警報時の取扱い／授業時使用資料の印刷について
身上変更について／休学・退学について／学費について／除籍について／各種証明書について
大学からの連絡について／各種窓口について／卒業見込について／欠席届について
休講・補講について／科目登録エラーについて
同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科への進学について

6．2018年度以降生用カリキュラム …… 21
6－1　卒業要件について …… 22
6－2　開講科目 …… 30

7．外国語による科目の開講について …… 45

8．資格について …… 53

同志社大学学則、学部一般内規 …… 56
外国留学に関する諸規定 …… 69
学業履修について …… 71
　授業／試験／論文・レポート／窓口／成績
交通機関の不通と暴風警報・特別警報発表に伴う授業・試験の実施について …… 76
スポーツ健康学部 教員名簿 …… 79
学部学年暦 …… 80
学びのデザインのヒント …… 81

スポーツ健康科学部の設置について

今日の社会生活全般におよぶ構造的ともいえる変容は、健康とスポーツに対するかつてない関心と欲求を生み出している。充実した社会生活をおくるうえでの基礎条件としての健康の重要性を、現代ほど多くの人々が再認識している時代はない。またこれほど、生活に質的充実をもたらすうえでスポーツの果たす役割が広く認められ、スポーツの楽しみを享受する欲求が高まっている時代はかつてないと言っても過言ではない。しかし、わが国は欧米諸国と比較し、「健康づくり」や「生きがいづくり」に寄与すべきスポーツ・健康教育の制度やスポーツ環境が今なお十分整備されているとは言い難い。そのような立ち遅れた社会的制度やインフラの拡充、発展のためには、なによりも社会構造、社会政策の転換が必要であるが、それと同時にスポーツ健康科学の専門的知識と理論を修得して、現代生活における健康の増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる多様な人材の育成が必要と考える。

スポーツ健康科学部はそのような社会的ニーズと人材養成の必要性に応え、健康とスポーツ活動およびそれらをとりまく社会環境に関する知見と諸理論を包括した総合的応用科学たるスポーツ健康科学の体系的な教育と研究を展開し、健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与・貢献し、活躍できる人材の養成を目的とする。

目指すべき人材（物）像

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科は、健康とスポーツ活動及び、それらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツ健康科学の知識と理論を総合的・体系的に修得し、スポーツ活動、地域・社会、学校教育、スポーツ関連産業及びヘルスケア産業等の現場で、専門的な立場から、健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる多様な人材を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【知識・技能】

・「健康」と「スポーツ活動」及びそれらをとりまく「社会環境」に関する知見と諸理論を包括したスポーツ健康科学を体系的に理解できる（知識・技能）。

・スポーツ健康科学に必要とされる自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できる（知識・技能）。

【思考力・判断力・表現力】

・「健康の増進」とスポーツの「パフォーマンス向上」及び「社会的発展」に関する課題を積極的に発見し、その解決方策をスポーツ健康科学の視点から学術的に探求できる（思考力・判断力）。

・「健康の増進」とスポーツの「パフォーマンス向上」及び「社会的発展」に関する課題をスポーツ健康科学の視点から学術的に探求した成果を適切に伝えることができる（表現力）。

【主体性・多様性・協働性】

・スポーツ健康科学の特性を適切に運用でき、「健康の増進」や「スポーツのパフォーマンス向上」、「スポーツの社会的発展」に寄与・貢献できる（主体性・多様性・協働性）。

・スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる（主体性・多様性・協働性）。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

［2018年度以降生］

１．教育課程全体の到達目標

健康の増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目Ａ～Ｆ群によって構成されるカリキュラムを設置する。なお、選択科目Ｆ群には、教養関連科目と外国語教育科目を設置する。

必修科目は、「健康」と「スポーツ活動」およびそれらをとりまく「社会環境」に関する課題を発見し、その解決方策をスポーツ健康科学の視点から探究できるようになることを到達目標とし、１年次と２年次に基礎科目を12単位、３年次および４年次に演習科目を14単位履修する。

２．必修科目の到達目標

・必修科目の基礎科目から、スポーツ健康科学の課題群を探求する基本的態度、多様性を受容する姿勢を身に付けることを到達目標とし、１年次に、対話や自己表現を重視するファースト・イヤー・セミナー２単位を履修する（主体性・多様性・協働性）。

・必修科目の基礎科目から、スポーツ健康科学に必要とされる自然科学的研究法、トレーニング法、人文社会科学研究法の基礎および応用法の修得を目指して、２年次に基礎実習２単位を履修する（知識・技能）。

・必修科目の演習科目から、スポーツ健康科学の課題群の解決に必要な高度な専門的知識・思考技術の習得を到達目標とし、３年次から４年次にかけて学術論文等の講読と研究発表を重視する演習Ⅰから演習Ⅳを８単位履修し、学術的・科学的見地から分析する能力を養う（思考力・判断力・表現力）。

・必修科目の演習科目から、スポーツ健康科学の諸課題のうち自ら選択した課題を対象に、知識・態度・技能を統合する創造的思考能力を習得することを到達目標として、４年次に卒業研究ＡおよびＢをそれぞれ３単位履修する（思考力・判断力・表現力）。

３．選択科目の到達目標

・選択科目Ａ群から、スポーツ健康科学を体系的に理解するために必要な基本的知識を習得することを到達目標とし、１年次から４年次にかけて６単位以上を選択履修する（知識・技能）。

・選択科目Ｂ群から、健康とスポーツの社会的発展に関する課題を解決するために必要な応用的、専門的知識を習得することを到達目標とし、２年次から４年次にかけて22単位以上を選択履修する（知識・技能）。

・選択科目Ｃ群（Ⅰ類とⅡ類）から、スポーツ健康科学の実践的な運用能力を習得することを到達目標とし、１年次から４年次にかけて少人数クラスの授業科目６単位以上を選択履修する（知識・技能）。

・選択科目Ｄ群から、健康の増進とスポーツの社会的発展に関する課題を発見あるいは解決方策を探究するために必要な知識・態度・技能を幅広く習得することを到達目標とし、１年次から４年次にかけて選択履修する（知識・技能）。

・選択科目Ｅ群から、スポーツ健康科学の実践的な運用能力を習得するとともに、特に学校教育の場で指導するために必要な知識・態度・技能を幅広く習得することを到達目標とする。１年次か

ら４年次にかけて選択履修する（知識・技能）。

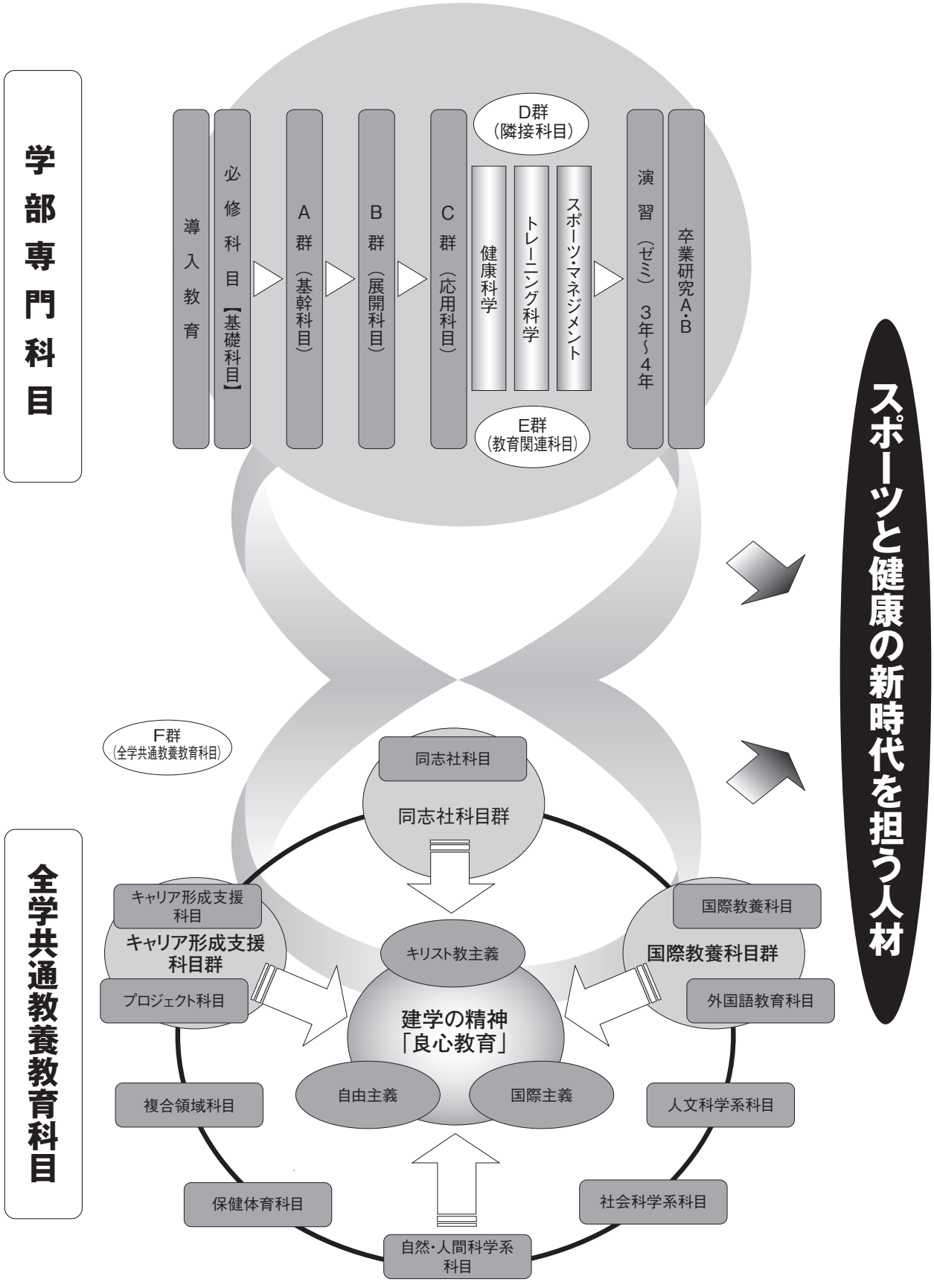
・選択科目Ｆ群のうち教養関連科目から、スポーツ健康科学を体系的に理解するために必要な知識・態度・技能を幅広く習得することを到達目標とし、１年次から４年次にかけて18単位以上を選択履修する（知識・技能）。

・選択科目Ｆ群のうち外国語教育科目から、読む・聴く・書く・話すの４技能に基づいた英語の実践的な運用能力の習得を到達目標に、１年次から２年次にかけて少人数クラスの英語演習科目８単位以上を履修する（知識・技能）。

・選択科目Ｆ群のうち外国語教育科目から、英語以外の外国語の基礎的運用能力を習得することを到達目標とし、１年次から２年次にかけて少人数クラスの初修外国語演習科目４単位以上を履修する（知識・技能）。

同志社大学スポーツ健康科学部

Ⅰ スポーツ健康科学部カリキュラムの特徴



スポーツ健康科学部の３つの学修領域

健康科学

健康、予防医学にスポーツ・身体活動の視点からアプローチする

身体の構造や機能に関する医・科学的理解を基礎にして、健康の維持、増進のための身体のメカニズムを学修します。

また、健康・予防医学に関連する社会的諸制度を学修します。そこから、スポーツと身体活動を通じた健康づくりの意義を理解します。

トレーニング科学

生涯スポーツと競技力向上にスポーツ科学からアプローチする

競技力向上のためのスポーツ医科学を活用したトレーニング方法と、生涯スポーツにつながる運動習慣の獲得方法を学修します。

アスリートのためだけではなく、子供から高齢者まで、楽しく正確にスポーツや運動が実践できる方法を学修します。

スポーツ・マネジメント

健康を軸としたQOL向上にスポーツと社会の関わりからアプローチする

スポーツを取り巻く社会環境の整備・充実の方策や社会スポーツの発展のための政策、さらにビジネスとしてのスポーツの運営・経営方法を学修します。

そこから、スポーツが地域社会の活性化および地域住民の生活の質的向上にどのように貢献できるのかを理解し「生涯スポーツ社会の実現」のためのマネジメント理論を学修します。

スポーツ健康科学部の特徴的なカリキュラム

ファースト・イヤー・セミナー（導入教育）

大学での学習の第一歩として、学修態度の涵養と学修方法の習得を目的とした科目です。本科目では、自ら課題を設定し、自ら調べ、批判的に考えながらまとめ、口頭やレポートの形で発表するという一連の流れを実践のなかで学ぶことによって、スポーツ健康科学を学んでいくための基礎訓練を行います。

演習Ⅰ、Ⅱ（3年次）、演習Ⅲ、Ⅳ（4年次）（少人数教育）

３年次より少人数のゼミ形式授業を数多く設置することによって、それぞれの専門分野の専任教員に親しく接し、きめ細かい学修指導を受けることができます。

基礎実習（基礎教育）

スポーツ健康科学は応用科学であり、その学問体系を理解する上で多くの実験・分析手技の修得が必須です。そこで、本実習では、スポーツ健康科学に必要とされる自然科学的実験法、トレーニング法実習、社会科学分析法の基礎および応用法を学び、文理融合型学問の学士（スポーツ健康科学）に相応しい基礎的な技能を誰もが身に付けることができます。

全学共通教養教育科目について

全学共通教養教育科目の履修を通じて、大学で学ぶ上での基礎を身につけるとともに、学問の奥深さを知ることにより、自由にかつ主体的に自らの学びを積極的に広げていく。これは専門分野の研究を進める上でも、欠くことのできない重要なことです。さらに、学問で得た成果を社会に還元するためには、社会で活躍するための人間的素養、「総合力」と真の「人間力」を身につける必要があります。全学共通教養教育科目の積極的な履修により、整理された知識を一方的に与えられるのではなく、自ら問題を発見し解決する「主体的な学び」の姿勢へ意識を転換した上で、「知」を総合化し、多様な人々の中で積極的に行動できる人間力をつけていただきたいと考えています。

全学共通教養教育科目の特徴的なカリキュラム

同志社科目群

本学に関する総合的理解と、キリスト教的倫理観・人間観・価値体系への理解を深める。

-同志社科目区分

基礎学術科目群

４つの科目区分を軸に、基礎的、学術的な理論を学び知識・技能を向上させる。

-人文科学系科目区分
-社会科学系科目区分
-自然科学系科目区分
-人間科学系科目区分

グローバル教養科目群

異文化および日本文化、世界の諸相ならびに諸課題の理解、外国語運用能力・コミュニケーション能力の養成をとおして、多様な文化的差異を認め乗り越える寛容さと協働性を身に付ける。

-国際教養科目区分
-外国語教育科目区分

イノベーション創出科目群

陋習（ろうしゅう）に囚われない自由な発想から新たな社会的価値を創出する力を涵養する。

-ライフデザイン科目区分
-クリエイティブ・ジャパン科目区分
-トピック科目区分

同志社大学の教育支援体制

○GPA 制度による成績評価、成績公表、授業講評　○授業評価アンケート
○DUET（学修支援システム）　○学術情報データベース

2 科目履修について

● 学位の取得に必要なこと

スポーツ健康科学部で学位を取得するためには、４年以上修学し（※休学期間は含まれません）、学部が定めるカリキュラムに沿って授業科目を履修して所定の単位(「卒業のための要件」を満たす単位。以後、「卒業単位」と表記します）を修得しなければなりません。卒業要件を満たした場合、学士（スポーツ健康科学）の学位が授与されます。

● 単位制について

学部ごとの教育課程（カリキュラム）に定められた科目を登録・履修し、試験に合格することにより科目所定の単位を修得し、在学年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

● セメスター制について

本学ではビジネス研究科を除くすべての学部・大学院研究科で「セメスター制」を実施しています。セメスター制では、１年を２つの学期（春学期、秋学期）に分け、学期ごとに授業が完結し、試験を行って成績評価をすることになります。各学期末に成績を通知します。

なお、履修科目の登録については、原則として秋学期に履修する科目も春学期の登録期間に登録してください。

● スポーツ健康科学部授業科目について

〈2018年度以降生〉

■必修科目	
学部の専門分野を学ぶ上で核となる科目群です。段階的に学べるよう、科目ごとに履修年次が定められています。	
■選択科目	
Ａ群（基幹科目）	学部の専門分野を学ぶ上で最も基本となる科目です。
Ｂ群（展開科目）	学部の専門科目を、より応用的・専門的に学修する科目です。
Ｃ群（応用科目）	〈Ⅰ類科目〉 学部の専門分野を実践（実技）の側面から学修する科目です。実技を伴う実践の具体的諸方策を学修します。
	〈Ⅱ類科目〉 学部の専門分野を分析・検証（講義･実習）の側面から学修する科目です。理論的知識を伴う実践の具体的諸方策を学修します。
Ｄ群（隣接科目）	他学部科目（他分野）で、学部の専門分野に特に関連が深い科目です。専門分野の隣接領域を学修します。
Ｅ群（教育関連科目）	学校現場での健康教育とスポーツ指導に直接関連することを学修する科目です。
Ｆ群（全学共通教養教育科目）	〈教養関連科目〉 同志社科目をはじめとする、それぞれの教養科目などを含む全学共通教養教育科目を学ぶことができます。
	〈外国語教育科目〉 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語およびコリア語の７言語をレベルに応じて学ぶことができます。
■自由科目	
単位を修得しても卒業に必要な単位として認められません。ただし、自由科目が免許･資格関係科目に該当する場合は、免許･資格関係の単位として認められます。	

「免許・資格関係科目」と「自由科目」について

免許･資格関係科目

教職免許状の取得や図書館司書・博物館学芸員などの資格取得のためには、それぞれの課程で定められた単位を履修する必要があります。その際、免許・資格のために修得した単位が同時に卒業単位にも算入される科目やそうでない科目があります。科目によって取扱が異なりますので注意してください。

また、１年間に登録できる単位数は学年ごとに定められています（12頁参照）ので、免許・資格の課程を履修する場合は、上限の中で卒業単位との兼ね合いを考え計画的に履修することが必要です。なお、所定の手続き（次頁「免許・資格関係科目」としての科目登録　参照）により、「免許・資格関係科目」として登録する場合は、上限を超えて登録することができます。

☞　免許・資格課程の履修は、『免許・資格関係履修要項』（別冊）を参照してください。

「免許･資格関係科目」としての科目登録

教員免許や図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格取得に履修が必要な科目を各年次の最高登録単位数とは別枠で履修することができます。この場合、「免許・資格関係科目」として登録します。科目登録時に登録コードの種別欄に「M」をつけて登録してください（免許資格に関する「自由科目」にも「M」を付けて登録できます)。ただし、「免許・資格関係科目」として登録した場合は、卒業単位には算入されません。このため、必修科目を「免許・資格関係科目」として登録することは認めていません。

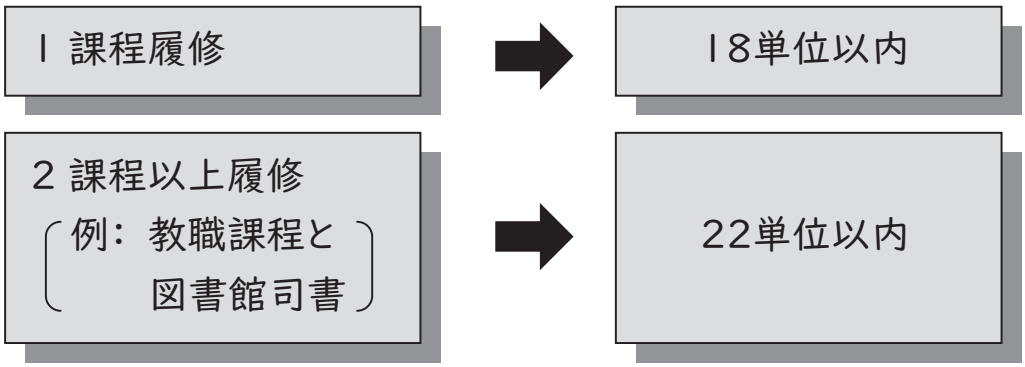
免許資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「仮登録（一般登録期間にDUETにて可能)」または「課程登録（説明会出席等の所定手続が必要)」を必ず行わなければなりません。手続方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センターの掲示で確認を行ってください。

「仮登録」または「課程登録」を行った課程で定められている科目に限りM登録を行うことが可能となります。「仮登録」または「課程登録」が完了していない場合、M登録することはできず、登録エラーとなるので注意してください。

「免許・資格関係科目」として履修（「M」を付けて登録）できる科目は、『免許・資格関係履修要項』に掲載されている免許・資格取得に関する科目のみです。

免許・資格関係科目として１年間に登録できる最高登録単位数は、各年次の年間最高登録単位数とは別に、１課程では18単位、２課程以上の場合は22単位です。

免許･資格関係科目としての年間登録単位数



・免許資格課程の履修にあたっては、各学部の卒業に必要な単位に加え、各免許資格課程で定められた所要単位を修得しなければなりません。
・授業だけでなく、準備学習や復習など授業時間外の学習の重要性を考慮したうえで、所属学部および免許資格の登録制限単位の範囲内で、１年次から計画的に履修することが要求されます。

自由科目

卒業に必要な単位として算入しない科目を自由科目といいます。開講科目一覧表の「科目群」欄に「自由科目」と表示されている科目は「自由科目」として扱われます。自由科目は卒業単位やGPAには算入されませんが、１年間の登録制限単位数には算入されますので、注意してください。

☞　下記表参照

スポーツ健康科学部が設置する自由科目は、前頁で説明した「免許・資格関係科目」として登録することで、各年次で定められた最高単位数とは別に登録することができます。

【注意】

本履修要項に記載されていない科目について、教職課程以外の免許・資格を取得するための科目を中心に一部自由科目になっている科目があります。履修予定の科目が自由科目にあたるかについては京田辺キャンパス教務センターにて確認をしてください。

自由科目となる科目の例

学術情報利用教育論、学校教育図書館論、図書館情報学概論、児童サービス論、学校図書館メディアの構成、学習指導と学校図書館、情報メディアの活用、図書館情報サービス論Ⅰ、図書館情報サービス論Ⅱ、図書館情報資源概論、図書館情報資源特論、図書館制度・経営論、情報サービス演習Ⅰ、情報サービス演習Ⅱ、情報資源組織演習Ⅰ、情報資源組織演習Ⅱ、図書館情報学特論、図書館演習、学校図書館サービス論、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱ　等

科目群の性格

	免許･資格関係科目	自由科目
GPA（平均点）への算入は？	NO（算入しない）	NO（算入しない）
上限単位を超えての登録は？	YES（可） （科目登録時に「M」を付けて登録する。）	NO（不可）
卒業単位への算入は？	NO（扱わない）	NO（扱わない）
免許資格取得に有効か？	YES（可）	YES（可）

3 科目登録について

● 登録単位数の上限

（1）1年間の登録単位数の上限

1年間に登録できる単位数の上限は学年ごとに異なります。また、春・秋各学期には最低2単位登録しなければなりません。

〈登録単位数の上限〉

1年	2年	3年	4年
44単位	44単位	48単位	48単位

（2）「免許・資格関係科目」として登録する場合の上限

免許資格の取得を目的とする場合、科目登録の際に「免許・資格関係科目」として申請すれば、（1）の上限を超えて登録することができます。申請可能となる科目については『免許・資格関係履修要項』（別冊）掲載の免許・資格取得に関する科目のみです。（9～11頁参照）

● 科目登録の方法

この項では、科目登録の大まかな手順を紹介します。科目登録についての詳細はスポーツ健康科学部HPに掲載の『登録要領』を参照してください。

また、今年度に開講される科目は、本誌「開講科目」（31頁～）に掲載しています。『登録要領』と合わせて参照してください。

1 今年1年間の自分自身の時間割を決めます。

・スポーツ健康科学部のカリキュラムを確認しましょう。

☞ 卒業要件（22頁～）を参照してください。

・在学中の自分自身の学習目標を達成するため、この一年間に「どのような授業を履修すればよいのか」、その履修計画を立てます。

2 今年度の履修科目を選びます。

・「開講科目」の一覧表を参照し、それぞれの科目の単位数や履修できる学年、担当者、校地、期間などを確認します。

・科目の内容は「シラバス」を参照してください。

☞ 登録した科目を途中で放棄をすると評価に影響が出ます。自分の学びたい内容かどうかをよく確認してから科目登録してください。

・時間割はスポーツ健康科学部HPに掲載の「スポーツ健康科学部時間割表」で確認します。

3 登録期間に今年度の履修科目を登録します。

・DUET（WEB）を利用して希望する科目の登録を行います。（全学年）

・科目によっては「先行登録」が必要な科目があります。

☞ クラス定員が定められている、選考を行うなどのため、一般登録より前に予め登録者を決めるものです。（対象科目および登録方法は『登録要領』を参照してください）

4 登録科目の確認をしてください。

・授業開始１週間後にDUET（WEB）から「登録科目確認表」をダウンロードすることが出来ます。「登録エラー」はこの確認表で確認することが出来ます。エラーがある場合、エラー修正期間（『登録要領』や掲示板を確認のこと）内に京田辺キャンパス教務センターにおいて必ず「登録修正」の手続を行ってください。

・登録エラーがなく、計画通りの科目登録ができていることを確認した後、科目登録の手続は完了します。

5 授業開始１ヵ月後に登録科目の履修を中止することができます。

・授業開始１ヵ月後に「履修中止」の期間が設けられています。不本意なまま受講を続けた結果、その科目の評価がGPAに悪影響を及ぼすことのないよう設けられた制度です。

科目登録に関する日程や教室などは、
『登録要領』のほか、掲示板やホームページにも掲載されます。
期限を過ぎると手続きができませんので、
注意してください。

4 GPA制度による成績評価について

GPA制度は、大学教育における成績評価制度のグローバル・スタンダードとして、現在、国際的にもっとも認知度の高い制度です。GPA制度導入の目的は、大学教育の国際的競争環境に関する教員と学生双方の自覚を高め、GPAを核とした的確な履修指導や学修支援システムを充実させることにより、学生の自立的な自己教育を支援し、本学の教育を質的に一層向上させることにあります。

GPA制度の概要

各科目の成績評価を以下の判定基準にしたがい、５段階（A、B、C、D、F）で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点（Grade Point）を付与して、１単位あたりの評点平均値（Grade Point Average）を算出する方法です。GPAは、不合格を意味するF評価の成績を含めて以下の計算式で算出しますが、F評価であった科目を再履修してD以上の評価を得た場合、最後についたF評価は新たな評価に書き換えられて算出されます。（15～16頁参照）

判定基準

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

〔GPA算出方法〕

$$\frac{(Ⓐ\times 4.0+Ⓑ\times 3.0+Ⓒ\times 2.0+Ⓓ\times 1.0+Ⓕ\times 0.0)}{(Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓕ)}$$

Ⓐ～ⒻはA～Fの評価がついた科目の単位数の合計

成績通知書には履修した全ての科目の評価とGPAが記載され、成績証明書には不合格科目を除く履修した全ての科目の評価とGPAが記載されます。

履修中止制度

GPA制度の導入により、開講後１ヵ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目については、定められた期間中に、一定の条件のもとに、登録科目の履修中止を申請できます。

クレーム・コミッティ制度

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、京田辺キャンパス教務センター（スポーツ健康科学部）に相談してください。相談の内容を確認後、必要に応じて各学部等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

追試験制度

全年次生を対象として病気またはやむを得ない事由により、定期試験またはスポーツ健康科学部教授会が認める臨時試験（中間テスト等）を受験できなかった場合、追試験の申請を行うことができます。受験希望者は以下の点に注意してください。

・当該科目の試験日の翌日から起算して３日以内（窓口業務休止日を除く）に、追試験願を京田辺キャンパス教務センターまで提出すること（ただし、課外活動を事由とする場合は事前申請を行うこと）。

※病気で３日以内に提出できない場合、必ず電話等で申請期間内に京田辺キャンパス教務センターに連絡の上、指示をうけること。

申請期間後の受付は一切行わない。

・当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を追試験願とともに提出すること。

追試験の対象となる事由および各事由を証明するための必要書類については本冊子後半の「学業履修について」に記載しています。

成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラス毎の平均点や、評点の分布を大学ホームページで公表します。

科目担当者による授業講評

教員と学生間の教育的フィードバックを目的として、期末試験やレポート試験結果および「学生による授業評価アンケート」を含めた授業関連活動全般に関する科目担当者による講評を、大学ホームページ上で公開します。

成績評価の書き換えについて

Ｆ評価であった科目を再履修してＤ評価以上を得た場合、直近のＦ評価は新たな評価に書き換えられます。

〈例〉

●〈再履修回数１回の場合〉

2024年度

科目名・クラス	評価
スポーツ生理学	F

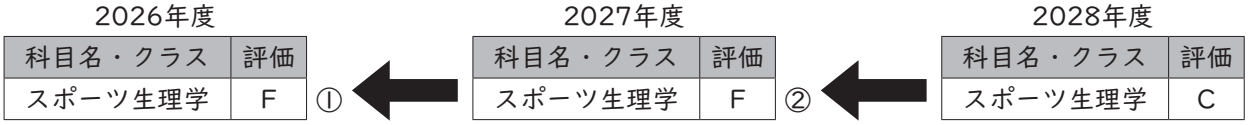
←

2025年度

科目名・クラス	評価
スポーツ生理学	C

2024年度の「Ｆ」評価が2025年度の「Ｃ」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって2024年度の「Ｆ」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

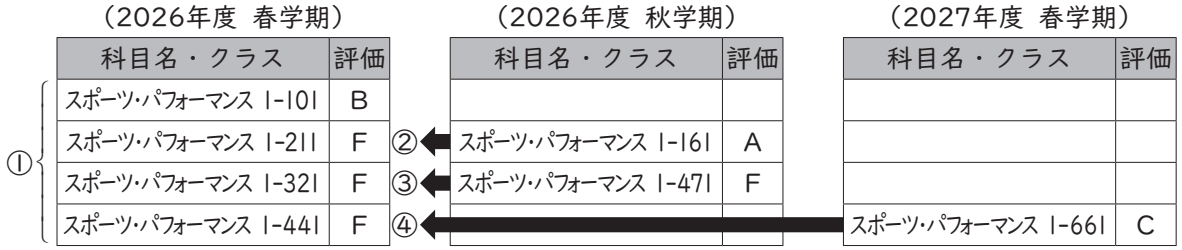
●〈再履修回数２回の場合〉



①2027年度の「Ｆ」評価によって2024年度の「Ｆ」評価は確定。よって以後の成績通知書にこの「Ｆ」評価は記載されます。

②2027年度の「Ｆ」評価が2028年度の「Ｃ」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって2027年度の「Ｆ」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

●〈同一学期に複数回履修した場合〉



①同一学期内で成績評価の書き換えは行いません。

②211クラスは、2026年度秋学期161クラスの「Ａ」評価に書き換えられます。書き換えられたことによって2026年度春学期211クラスの「Ｆ」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

③321クラスは、2026年度秋学期471クラスの「Ｆ」評価によって「Ｆ」評価に確定。
321クラスの「Ｆ」評価は以後の成績通知書に記載されるとともに評点「0.0」が算入されます。

④441クラスは、2027年度春学期661クラスの「Ｃ」評価に書き換えられます。書き換えられたことによって2026年度春学期441クラスの「Ｆ」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

〈注意事項〉

・「スポーツ・パフォーマンスⅠ」については、複数の種目がありますが、それぞれ同一とみなして成績を書き換えます。

・「プロジェクト科目」「大学コンソーシアム京都単位互換科目」「同志社大学女子大学単位互換科目」等、一部の科目については、成績を書き換えません。

・合格／不合格で評価を行う科目は、GPAに算入されません。

● 成績不振者への個別履修指導について

スポーツ健康科学部では、１年次と２年次の春学期・秋学期および３年次の春学期のそれぞれの終了時点で単位修得状況が芳しくない方（４年間の修業年限で卒業に必要な単位数を修得していくには厳しくなりつつある方）について、教員による個別履修指導を実施します。特に１年次の春学期の単位修得状況が芳しくなかった方については、秋学期期間中に大学院生のチューターによる個別履修指導（チュートリアルセミナー）を毎週実施します。指導対象とならないよう、４年間を通じた計画的な履修を心がけてください。

5 その他

ここでは、本学全学共通での学籍・学費・学業履修に関する規定事項等、学生生活を送るにあたって基本となる事柄について記載します。

○ 事務室について

●京田辺キャンパス教務センター（スポーツ健康科学部）

科目登録等の履修に関する事項、学業成績に関する事項など教務に関する様々な事項の窓口です。

科目履修に関して不明な点がある場合は気軽にご相談ください。

【場所】：８月まで嗣業館１階　８月から成心館１階

【開室時間】：平日　９：00～11：30　12：30～17：00

●スポーツ健康科学部事務室

学部書庫の利用、実験・実習に関する残留届の提出についての窓口です。

【場所】：磐上館１階　【開室時間】：平日　９：00～11：30　12：30～17：00

○ 授業時間・試験時間

授業時間、試験時間については以下のとおりです。ただし、学年暦で定める各学期末試験期間中以外で実施される試験の実施時間については各科目担当教員の指示に従って受験してください。

授業時間

１講時	９：00～10：30
２講時	10：45～12：15
３講時	13：10～14：40
４講時	14：55～16：25
５講時	16：40～18：10
６講時	18：25～19：55
７講時	20：10～21：40

試験時間

１講時	９：20～10：30
２講時	11：00～12：10
３講時	13：25～14：35
４講時	15：05～16：15
５講時	16：45～17：55
６講時	18：25～19：35
７講時	20：05～21：15

○ 警報時の取扱い

詳細については本冊子後半の「交通機関の不通と暴風警報・特別警報発表に伴う授業・試験の実施について（司法研究科以外）」を参照してください。警報等発表当日の対応については本学ホームページ上で周知する場合がありますので当日は必ず確認をするようにしてください。なお、休講処置をとった場合の補講については各科目担当教員の指示に従ってください。

○ 授業時使用資料の印刷について

授業時における発表等で他の受講生に配付するための資料（レジュメ等）を大量に印刷したい場合、京田辺キャンパス教務センター内の学生印刷室にて無料で印刷機を使用することができますので活用してください。（印刷室の利用には、京田辺校地教務課窓口において受付を行う必要があります。印刷できるのは授業に関する資料のみです。印刷にあたり、あらかじめ印刷する用紙の原本を準備してください。）

○ 身上変更について

在学期間中に住所（本人、父母等両方を含む）、姓名、保証人に変更が生じた場合、至急以下のとおり変更手続を取ってください。変更の際に必要となる各変更届については京田辺キャンパス教務センターにて配付しています。

変更事由	手続方法
本人の現住所・電話番号の変更	学修支援システムDUET上「住所変更」にて修正
父母等住所・電話番号の変更	京田辺キャンパス教務センターに「住所変更届」を提出
姓名の変更	京田辺キャンパス教務センターに戸籍抄本とともに「改姓（名）届」を提出
保証人の変更	京田辺キャンパス教務センターに「保証人変更届」を提出

○ 休学・退学について

諸事情により休学、退学を希望する場合、京田辺キャンパス教務センターに「休学願」、「退学願」を定められた期日までに提出する必要があります。各願の提出後、スポーツ健康科学部教授会の審議を経て正式に休学、退学が承認されます。休学期間は１年または半年とし、春学期時の休学申請時のみ１年間の休学を申請することができます。

※一度申請し承認された後は、原則休学期間の変更はできません。

申請にあたり不明な点がある場合は必ず余裕をもって事前に京田辺キャンパス教務センターまで問い合わせてください。

願の種類	提出締切
休学願	各学期の講義開始日まで
退学願	各学期終了日（春学期末退学の場合：９/20　年度末退学の場合：３/31）まで

※講義開始日、各学期終了日が土・日・祝日の場合、各日の直前の窓口開室日までに提出して下さい。

○ 学費について

学費については、大学から郵送でお送りする振込用紙を使用し、指定の期日までに納入を行ってください。分割納入を希望する場合、本学ホームページ上から手続を行うことができます。

各学期の学費納入振込用紙の送付予定は次のとおりです。

春学期用（年額用を含む）：４月中旬　　秋学期用：10月中旬

休学申請を行った場合、別途休学費納入用の振込用紙を後日送付しますので、上記期間に送付される通常の学費納入振込用紙は使用しないでください。

○ 除籍について

学費未納のまま新年度を迎えると自動的に除籍となります。除籍になりますと同志社大学の学生としての身分が失われることとなり、学修支援システムDUET等ネットワークの利用や、図書館等学内の施設が利用できなくなるとともに、新年度の授業について登録、履修ができなくなります。また、日本学生支援機構奨学金の貸与を受けていた場合、奨学金も支払われなくなります。必ず収納期日までに学費を完納しておくように注意してください。

○ 各種証明書について

就職活動や留学などで各種証明書が必要となる場合、学内に設置されている証明書発行機や全国各地のコンビニエンスストア（セブンーイレブン、ファミリーマート、ローソン）で出力することができます。

発行にあたっての大まかな流れは次のとおりです。

1. PCやスマートフォンから証明書発行サービスのWebサイトにアクセス
2. 証明書を印刷する場所を選択
3. 発行したい証明書を選択
4. 支払方法を選択
5. 選択した印刷場所で証明書を印刷

申請方法や証明書発行手数料、支払い方法等の詳細については本学HPに掲載していますので、以下のURL、QRコードから詳細を確認してください。

https://www.doshisha.ac.jp/education/certificate/index.html

大学からの連絡について

原則として大学が交付したメールアドレス、学修支援システムDUET、大学WEBサイト、掲示板により連絡を行います。大切な連絡を見落とすことのないよう、これらを定期的に確認してください。授業内での連絡方法については担当者の指示に従ってください。

各種窓口について

学生生活上、不明な点が生じた場合は各事務室窓口まで問い合わせてください。以下に一例を示しますので参考にしてください。その他の例については大学WEBサイトを参照してください。

相談内容	取扱窓口
科目履修、休学･退学、証明書、成績に関すること	京田辺キャンパス教務センター （８月まで：嗣業館１階　８月から：成心館１階）
就職に関すること	キャリアセンター（京田辺）（日糧館２階）
留学に関すること	国際センター 国際課（京田辺）（嗣業館１階）
学費納入、奨学金に関すること	京田辺校地学生生活課（成心館１階）

卒業見込について

４年次春学期の科目登録期間において、卒業に必要となる科目をすべて登録することで「卒業見込」の状態となり、後日、就職活動等で必要となる「卒業見込証明書」が発行できるようになります。「演習」などの秋学期科目の登録を忘れると「卒業見込証明書」が発行できません。必ず春学期の科目登録期間中に１年間の科目登録を行うようにしてください。

【春学期卒業について】

休学期間を除き４年以上在学し、春学期終了時点で卒業要件を満たすことができた場合、春学期卒業となります。卒業研究の単位を修得することで卒業可能となる場合、春学期卒業論文提出期間中に卒業論文を提出し合格することで卒業可となりますので、担当指導教員とよく相談の上、提出してください。

● 欠席届について

同志社大学において公欠制度はありません。病気や課外活動等で授業を欠席する場合に休んだ事由を証明できるもの（医師の診断書、大会の実施要領等のコピー）とともに、京田辺キャンパス教務センターにある欠席届に欠席した事由を記入の上、欠席した授業科目の担当者に手渡してください。

ただし、欠席事由が「学校において予防すべき感染症」罹患による出席停止に該当する場合は、診断を受けた医療機関にて診断書（出席停止期間の記載が必要）または本学所定の「学校において予防すべき感染症」罹患証明書の交付を受け、次回授業時に学校感染症罹患に伴う欠席届とともに授業担当者へ提出してください（診断書、証明書はコピーでも可）。学校感染症罹患に伴う欠席届は所属学部事務室にて配布しています。

なお、欠席届を提出したからといって欠席分の出席点が保障されるものではありません。欠席届に関する取扱いは各科目担当者により異なりますので提出時に必ず各科目担当者に確認を取ってください。

※免許・資格取得のための各種実習に係る欠席届については別途免許資格課程センターの指示を受けてください。

● 休講・補講について

休講情報については本学ホームページ上、在学生のページの「休講情報」および学修支援システムDUETから確認できます。授業実施当日に急遽休講となる場合もありますので定期的に確認を取るように注意してください。

授業休講に伴う補講については各科目担当者の指示に従い受講してください。

● 科目登録エラーについて

各学期登録期間に行った科目登録においてエラーが生じた場合、エラー修正期間に修正を行わずに放置した状態になりますと、大学側で強制的にエラー削除を行います。エラー削除に気づかず、該当科目を履修し続け試験を受験してもその科目について単位は付与されません。よって、自身の登録科目についてエラーが生じていないか、登録した科目に間違いがないかを登録エラー修正期間中にDUETから各自「登録科目確認表」をダウンロードして必ず確認するようにしてください。

● 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科への進学について

スポーツ健康科学に関して、より専門的な知識を身につけたい、より高いレベルの講義を受講したいという方に向けて、同志社大学大学院にはスポーツ健康科学研究科が設置されています。同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科への進学方法として、一般の大学院入試の受験に加えて、スポーツ健康科学部生に向けて以下の受験制度があります。

●特別入学制度【夏期実施分のみ】

３年次終了時の成績で一定の基準を満たした学生について、筆記試験が免除されます。

●飛び入学制度【春期実施分のみ】

３年次終了時の成績で一定の基準を満たした学生について、４年次生への進学をせず大学院入試を受けることができます。

※飛び入学制度を利用して大学院に入学する場合、学部卒業という扱いではなく、学部退学という扱いになりますので、注意して下さい。

詳細は毎年６月頃より配付開始となる『同志社大学大学院入学試験要項』にてご確認ください。

６．2018年度以降生用カリキュラム

6-1 卒業要件について

卒業必要単位

	必修科目		選択科目								合計
	基礎科目	演習科目	A群（基幹科目）	B群（展開科目）	C群（応用科目） Ⅰ類	C群（応用科目） Ⅱ類	D群（隣接科目）	E群（教育関連科目）	F群(全学共通教養教育科目) 教養関連科目	F群(全学共通教養教育科目) 外国語教育科目 英語	F群(全学共通教養教育科目) 外国語教育科目 英語以外	
卒業要件	12	14	6	22	4	6			18	8	4	124
			48									
	26		98									

必修科目26単位（基礎科目12単位、演習科目14単位）、選択科目98単位以上、合計124単位以上履修すること。ただし、A群、B群、C群、D群、E群より48単位以上（A群6単位以上、B群22単位以上、C群6単位以上（C群Ⅰ類から4単位以上を含む）を含む）履修すること。また、F群全学共通教養教育科目から30単位以上（外国語教育科目から英語8単位以上、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語及びコリア語の中から一つの外国語を選択し4単位以上、全学共通教養教育科目（外国語教育科目、保健体育科目（スポーツ・健康の科学A、B、C）を除く）・他学部設置科目・同志社女子大学単位互換科目・大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学ＩＥＳ科目より18単位以上を含む）履修すること。

配当年次	必修科目	単位
	基礎科目	
1～	ファースト・イヤー・セミナー	2
	スポーツ健康科学論入門	2
	生理学	2
	スポーツ生理学	2
	スポーツ社会学	2
2～	基礎実習	2
	演習科目	
3～	演習Ⅰ	2
	演習Ⅱ	2
4～	演習Ⅲ	2
	演習Ⅳ	2
	卒業研究A	3
	卒業研究B	3

○上記科目を全て履修します。

配当年次	選択科目	単位
	A群：基幹科目	
1～	健康運動論	2
	スポーツ政策論	2
2～	公衆衛生学	2
	スポーツ運動学	2
	トレーニング論	2
	スポーツ教育学	2
	B群：展開科目	
1～	スポーツ機能解剖学	2
2～	生命医科学概論	2
	人体の構造と機能Ⅰ	2
	スポーツ医学A（内科系）	2
	スポーツ医学B（外科系）	2
	生活習慣病概論	2
	発育発達と老化	2
	栄養学	2
	学校保健	2
	スポーツ栄養学	2
	スポーツ・バイオメカニクス	2
	コンディショニング論	2
	スポーツ心理学	2
	スポーツの原理	2
	スポーツ測定評価論	2
	メンタル・トレーニング論	2
	コーチング論	2

配当年次	選択科目	単位
	B群：展開科目（続き）	
2～	スポーツ・マーケティング論	2
	障がい者スポーツ論	2
	障がい者スポーツ論（応用）	2
	スポーツ統計情報処理	2
	スポーツ倫理学	2
	スポーツ・トピックスⅠ	2
	スポーツ・トピックス2	2
	スポーツ行政論	2
	インターンシップ演習	2
	スポーツ組織文化論	2
	身体運動制御論	2
	スポーツ生体ダイナミクス	2
	スポーツ生化学（2024年度以降生）	2
	スポーツビジネス論（2024年度以降生）	2
	スポーツ・マネジメント論（2024年度以降生）	2
	環境生理学（2024年度以降生）	2
	スポーツ分子生物学（2024年度以降生）	2
	スポーツ健康科学グローバル演習【注Ⅰ】	2
3～	健康教育学	2
	ヒトの病理と防御システムⅠ	2
	リハビリテーション医学	2
	スポーツ生化学（2023年度以前生）	2
	薬理学	2
	精神保健論	2
	スポーツマッサージ・テーピング論	2
	高齢者スポーツ論	2
	競技者育成システム論	2
	スポーツ経済学	2
	スポーツビジネス論（2023年度以前生）	2
	スポーツ人類学	2
	スポーツ・メディア論	2
	スポーツ・マネジメント論（2023年度以前生）	2
	障がい者スポーツ指導論	2
	スポーツ健康外国書講読Ⅰ	2
	スポーツ健康外国書講読Ⅱ	2
	環境生理学（2023年度以前生）	2
	スポーツ分子生物学（2023年度以前生）	2
	スポーツ健康科学特殊講義A【注Ⅰ】	2
	スポーツ健康科学特殊講義B【注Ⅰ】	2

配当年次	選択科目	単位
	C群：応用科目　Ⅰ類【注２】	
Ⅰ～	スポーツ方法実習（フィットネス）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（器械運動）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（水泳）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（バスケットボール）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（バレーボール）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（サッカー）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（卓球）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（テニス）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（柔道）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（剣道）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（ダンス）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（ゴルフ）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（バドミントン）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（フェンシング）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（陸上競技）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（ウォータースポーツ）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（ソフトテニス）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（ニュースポーツ）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（レスリング）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（フィジカルトレーニング）	Ⅰ
２～	スポーツ方法実習（スキー）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（スノースポーツ）	Ⅰ
	スポーツ方法実習（野外活動）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（フィットネス）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（器械運動）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（水泳）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（バスケットボール）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（バレーボール）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（サッカー）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（卓球）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（テニス）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（柔道）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（剣道）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（ダンス）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（スキー）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（スノースポーツ）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（ゴルフ）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（野外活動）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（バドミントン）	Ⅰ
	スポーツ指導法実習（陸上競技）	Ⅰ

	C群：応用科目　Ⅱ類	
Ⅰ～	スポーツ健康科学特殊講義Ｓ【注Ⅰ】	2
２～	スポーツ健康科学応用演習【注Ⅰ】	2

	D群：隣接科目	
Ⅰ～	スポーツ健康科学のための自然科学入門Ａ	2
	スポーツ健康科学のための自然科学入門Ｂ	2
	現代社会論	2
	児童・家庭福祉論（2021年度以降生）	2
	児童福祉論Ⅰ（2020年度以前生）	2
	児童福祉論Ⅱ（2020年度以前生）	2
	発達と学習の心理学	2
２～	生物学	2
	学習心理学（学習・言語心理学Ⅰ）	2
	生理心理学（神経・生理心理学）（2023年度以前生）	2
	生理心理学（神経・生理心理学Ⅰ）（2024年度以降生）	2
	学校心理学（教育・学校心理学）	2
	健康心理学（健康・医療心理学）	2
３～	生化学	2
	内科学概論（2025年度以前生）	2
	臨床医学概論２（2026年度以降生）	2
	外科学概論（病態生理学）（2025年度以前生）	2
	臨床医学概論３（2026年度以降生）	2
	臨床解剖学概論	2

配当年次	選択科目	単位
	E群：教育関連科目	
Ⅰ～	人権教育論	2
２～	教育社会学（2018年度生）	2
	学校教育社会学	2
	視聴覚教育（2018年度生）	2
	保健体育科教育法ＡⅠ	2
	保健体育科教育法Ａ２	2
	教育方法とICT活用の理論と実践（2022年度以降生）	2
	教育方法論（2021年度以前生）	2
３～	保健体育科教育法Ｂ	2
	保健体育科教育法Ｃ	2

	F群：全学共通教養教育科目	
	同志社科目	
	キャリア形成支援科目（2024年度以前生）	
	ライフデザイン科目（2025年度以降生）	
	国際教養科目	
	クリエイティブ・ジャパン科目	
	複合領域科目（2024年度以前生）	
	トピック科目（2025年度以降生）	
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	自然・人間科学系科目（2024年度以前生）	
	自然科学系科目（2025年度以降生）	
	人間科学系科目（2025年度以降生）	
	外国語教育科目	
	保健体育科目	
	他学部設置科目	
	同志社女子大学単位互換科目	
	大学コンソーシアム京都単位互換科目	
	テュービンゲン大学ＩＥＳ科目	
	日本語・日本文化教育科目（外国人留学生対象）	

○保健体育科目について、スポーツ・パフォーマンスⅠは卒業単位には２単位まで算入されます。スポーツ・健康の科学Ａ、Ｂ、Ｃは自由科目扱いとし、卒業単位には算入されません。

配当年次	自由科目	単位
Ⅰ～	教職概論	2
	教育原理	2
	特別ニーズ教育論（2019年度以降生）	2
	特別支援と福祉の教育（2018年度生）	2
２～	スクールインターンシップ	2
	教育課程論	2
	教育制度と学校経営（2019年度以降生）	2
	学校経営と法規（2018年度生）	2
	道徳教育の理論と実践	2
	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
	特別活動論（2018年度生）	2
	生徒・進路指導の理論と方法	2
３～	教育相談（2018年度生）	2
	教育相談の理論と方法（2019年度以降生）	2
	学校カウンセリング（2018年度生）	2
	健康運動指導実習	Ⅰ
	教育実習Ａ	2
４～	教職実践演習（中・高）	2
	教育実習指導	Ⅰ
	教育実習Ｂ	2
	教育実習Ｃ	4

○自由科目を履修し修得した単位は、卒業単位には算入されません。（免許資格申請には有効です。）

履修上の注意

複数のテーマが展開・開講される科目の履修について【注１】

スポーツ健康科学特殊講義Ａ、Ｂ、Ｓならびにスポーツ健康科学グローバル演習、スポーツ健康科学応用演習の各科目について同一のテーマが毎年開講されるわけではありません。一度合格すると異なるテーマであっても同一科目の再履修は不可となります。ただし、各科目について一度不合格となり再履修を行う場合、異なるテーマであっても合格すれば成績の書き換えは行われます。

・再履修不可の例：
スポーツ健康科学特殊講義Ａにおいて、「スポーツ法学」のクラスに合格した後、「スポーツ・マネジメント・プロジェクト」のクラスを履修

・再履修可の例：
スポーツ健康科学特殊講義Ａにおいて、「スポーツ法学」のクラスが不合格となった後、「スポーツ・マネジメント・プロジェクト」のクラスを履修（合格した場合、スポーツ健康科学特殊講義Ａについて成績の書き換えが行われる。）

選択科目Ｃ群Ⅰ類の履修について【注２】

〈スポーツ方法実習〉
・スポーツ方法実習を履修中止した場合は、登録中のスポーツ指導法実習を大学側で削除します。
〈スポーツ指導法実習〉
・スポーツ指導法実習は２年次配当科目です。
・同種目のスポーツ方法実習を合格していることが履修条件です。スポーツ方法実習が不合格の場合は、登録中の同種目のスポーツ指導法実習を大学側で削除します。（スノースポーツ、野外活動を除く）

外国語教育科目の履修について【注３】

〈英語〉
・Ｆ群「外国語教育科目」に求められる「英語」（８単位）は、「全学共通教養教育科目（外国語教育科目）」の英語科目から自由に選択し、８単位以上を履修します。
（注）各科目に定められた履修条件を無視することはできません。
・「英語」について、８単位を超えて修得した単位は、Ｆ群として卒業単位に算入されます。
・入学前または在学中にTOEIC® Listening & Reading Test、TOEFL®テスト等外部試験において以下の表に記載の水準以上の成果を修めた者は、４単位を限度として外国語教育科目の英語科目の単位として認定することができます。認定の手続きについてはスポーツ健康科学部HPに掲載の『登録要領』で確認してください。

試験の種類	TOEIC®Listening & Reading Test	TOEFL-iBT® ※旧スコアスケール（I-I20）で判定	IELTS	実用英語技能検定	国際連合公用英語検定
２単位	630～799	63～89	5.5～6.4	準１級	Ａ級
４単位	800以上	90以上	6.5以上	１級	特Ａ級

TOEFL、TOEFLiBT、TOEFL ITPおよびTOEICはエデュケーショナル・テスティング・サービス（ETS）の登録商標です。

〈英語以外〉
・Ｆ群「外国語教育科目」に求められる「英語以外」（４単位）は、「全学共通教養教育科目（外国語教育科目）」からドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語及びコリア語の中からＩ言語を選択し、４単位以上を履修します。
（注）選択したＩ言語の中であれば、科目を自由に選択し履修することができます。（会話科目の卒業単位算入数の上限はありません。）
（注）各科目に定められた履修条件を無視することはできません。
・「英語以外」について、４単位を超えて修得した単位はＦ群として卒業単位に算入されます。
・「基礎イタリア語」の修得単位はＦ群（教養関連科目）に算入されます。（Ｆ群（外国教育科目）に算入されません。）

Ｆ群科目〈保健体育科目〉の履修について【注４】

・「全学共通教養教育科目（保健体育科目）」の履修については以下のとおりに取り扱います。
〈スポーツ・パフォーマンスⅠ〉
・卒業単位には２単位まで算入されます。２単位を超えて修得した単位は、GPAには算入されますが、卒業単位には算入されません。
〈スポーツ・健康の科学Ａ、Ｂ、Ｃ〉
・自由科目扱いとなり、卒業単位には算入されません。（免許資格取得には有効となります。）

演習Ⅱ、Ⅳ・卒業研究Ｂの登録について

「演習Ⅱ」、「演習Ⅳ」および「卒業研究Ｂ」は秋学期開講科目ですが、必ず春学期登録期間中に登録すること。

学修領域について

スポーツ健康科学部で提供している科目は、「健康科学」「トレーニング科学」「スポーツ・マネジメント」の３つの学修領域に特徴づけられます。次頁以降の科目配置表について、科目を選択し履修する際に参考にして下さい。（健康科学系の学びを志向するときは、「健康科学」の科目配置表を参考に科目を選択します。他領域からも幅広く選択できます。）

健康科学

身体の構造や機能に関する医・科学的理解を基礎にして、健康の維持、増進のための身体のメカニズムを学修します。

また、健康・予防医学に関連する社会的諸制度を学修します。そこから、スポーツと身体活動を通じた健康づくりの意義を理解します。

トレーニング科学

競技力向上のためのスポーツ医科学を活用した科学的なトレーニング方法と、生涯スポーツにつながる運動習慣の獲得方法を学修します。

単にアスリートのためではなく、子供から高齢者まで、楽しく正確にスポーツや運動が実践できる方法を学修します。

スポーツ・マネジメント

スポーツを取り巻く社会環境の整備・充実の方策や社会スポーツの発展のための政策、さらにビジネスとしてのスポーツの運営・経営方法を学修します。

そこからスポーツが、地域社会の活性化および地域住民の生活の質的向上に、どのように貢献できるのかを理解し「生涯スポーツ社会の実現」のためのマネジメント理論を学修します。

◎ 健康科学（科目配置表）

		1年次配当	2年次配当	3年次配当	4年次配当
必修科目	基礎科目 演習科目	ファースト・イヤー・セミナー スポーツ健康科学論入門 生理学 スポーツ生理学 スポーツ社会学	基礎実習	演習Ⅰ 演習Ⅱ	演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業研究Ａ・Ｂ
選択科目	A群：基幹科目	健康運動論 スポーツ政策論	公衆衛生学 スポーツ運動学 トレーニング論 スポーツ教育学		
	B群：展開科目	スポーツ機能解剖学	スポーツ医学Ａ（内科系） スポーツ医学Ｂ（外科系） 生活習慣病概論 スポーツ生化学【注1】 スポーツ分子生物学【注1】 身体運動制御論 スポーツ生体ダイナミクス 発育発達と老化 栄養学 スポーツ栄養学 コンディショニング論 スポーツ測定評価論 生命医科学概論 人体の構造と機能Ⅰ 環境生理学【注1】 学校保健 スポーツ心理学 スポーツ統計情報処理 スポーツ健康科学グローバル演習	ヒトの病理と防御システムⅠ 薬理学 精神保健論 リハビリテーション医学 スポーツマッサージ・テーピング論 健康教育学 高齢者スポーツ論 スポーツ健康外国書講読Ⅰ・Ⅱ	
	C群：応用科目	スポーツ方法実習 スポーツ健康科学特殊講義Ｓ	スポーツ指導法実習 スポーツ健康科学応用演習		
	D群：隣接科目	スポーツ健康科学のための自然科学入門Ａ スポーツ健康科学のための自然科学入門Ｂ 現代社会論 児童・家庭福祉論（2021年度以降生） 児童福祉論Ⅰ（2020年度以前生） 児童福祉論Ⅱ（2020年度以前生） 発達と学習の心理学	生物学 学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ) 生理心理学(神経・生理心理学)(2023年度以前生) 生理心理学(神経・生理心理学Ⅰ)(2024年度以降生) 学校心理学(教育・学校心理学) 健康心理学(健康・医療心理学) 生化学 内科学概論（2025年度以前生） 臨床医学概論２（2026年度以降生） 外科学概論(病態生理学)(2025年度以前生) 臨床医学概論３（2026年度以降生） 臨床解剖学概論		
	E群：教育関連科目	人権教育論	教育社会学（2018年度生） 学校教育社会学 視聴覚教育（2018年度生） 保健体育科教育法Ａ１ 保健体育科教育法Ａ２ 教育方法とICT活用の理論と実践(2022年度以降生) 教育方法論（2021年度以前生）	保健体育科教育法Ｂ 保健体育科教育法Ｃ	
	F群： 全学共通教養教育科目	同志社科目 キャリア形成支援科目（2024年度以前生） ライフデザイン科目（2025年度以降生） 国際教養科目	クリエイティブ・ジャパン科目 プロジェクト科目（2024年度以前生） 複合領域科目（2024年度以前生） トピック科目（2025年度以降生）	人文科学系科目 社会科学系科目 自然・人間科学系科目（2024年度以前生） 自然科学系科目（2025年度以降生）	人間科学系科目（2025年度以降生） 外国語教育科目 保健体育科目（スポーツ・パフォーマンスⅠ） 他学部設置科目 他

【注1】2023年度以前生は3年次から配当

◎ トレーニング科学（科目配置表）

		1年次配当	2年次配当	3年次配当	4年次配当
必修科目	基礎科目 演習科目	ファースト・イヤー・セミナー スポーツ健康科学論入門 生理学 スポーツ生理学 スポーツ社会学	基礎実習	演習Ⅰ 演習Ⅱ	演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業研究Ａ・Ｂ
選択科目	A群：基幹科目	健康運動論 スポーツ政策論	公衆衛生学 スポーツ運動学 トレーニング論 スポーツ教育学		
	B群：展開科目	スポーツ機能解剖学	メンタル・トレーニング論 スポーツ・バイオメカニクス スポーツ生化学【注1】 スポーツ分子生物学【注1】 身体運動制御論 スポーツ生体ダイナミクス 発育発達と老化 栄養学 スポーツ栄養学 コンディショニング論 スポーツ測定評価論 生命医科学概論 人体の構造と機能Ⅰ 環境生理学【注1】 コーチング論 障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論(応用) 学校保健 スポーツ心理学 スポーツ統計情報処理 スポーツ健康科学グローバル演習	競技者育成システム論 リハビリテーション医学 スポーツマッサージ・テーピング論 障がい者スポーツ指導論 健康教育学 高齢者スポーツ論 スポーツ健康外国書講読Ⅰ・Ⅱ	
	C群：応用科目	スポーツ方法実習 スポーツ健康科学特殊講義Ｓ	スポーツ指導法実習 スポーツ健康科学応用演習		
	D群：隣接科目	スポーツ健康科学のための自然科学入門A スポーツ健康科学のための自然科学入門B 現代社会論 児童・家庭福祉論（2021年度以降生） 児童福祉論Ⅰ（2020年度以前生） 児童福祉論Ⅱ（2020年度以前生） 発達と学習の心理学	生物学 学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ) 生理心理学（神経・生理心理学）(2023年度以前生) 生理心理学(神経・生理心理学Ⅰ)(2024年度以降生) 学校心理学(教育・学校心理学) 健康心理学(健康・医療心理学) 生化学 内科学概論（2025年度以前生） 臨床医学概論２（2026年度以降生） 外科学概論(病態生理学)(2025年度以前生) 臨床医学概論３（2026年度以降生） 臨床解剖学概論		
	E群：教育関連科目	人権教育論	教育社会学（2018年度生） 学校教育社会学 視聴覚教育（2018年度生） 保健体育科教育法Ａ１ 保健体育科教育法Ａ２ 教育方法とICT活用の理論と実践(2022年度以降生) 教育方法論（2021年度以前生）	保健体育科教育法Ｂ 保健体育科教育法Ｃ	
	F群： 全学共通教養教育科目	同志社科目 キャリア形成支援科目（2024年度以前生） ライフデザイン科目（2025年度以降生） 国際教養科目	クリエイティブ・ジャパン科目 プロジェクト科目（2024年度以前生） 複合領域科目（2024年度以前生） トピック科目（2025年度以降生）	人文科学系科目 社会科学系科目 自然・人間科学系科目（2024年度以前生） 自然科学系科目（2025年度以降生）	人間科学系科目（2025年度以降生） 外国語教育科目 保健体育科目（スポーツ・パフォーマンスⅠ） 他学部設置科目 他

【注1】2023年度以前生は3年次から配当

◎ スポーツ・マネジメント（科目配置表）

		1年次配当	2年次配当	3年次配当	4年次配当
必修科目	基礎科目 演習科目	ファースト・イヤー・セミナー スポーツ健康科学論入門 生理学 スポーツ生理学 スポーツ社会学	基礎実習	演習Ⅰ 演習Ⅱ	演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業研究Ａ・Ｂ
選択科目	A群：基幹科目	健康運動論 スポーツ政策論	公衆衛生学 スポーツ運動学 トレーニング論 スポーツ教育学		
	B群：展開科目	スポーツ機能解剖学	スポーツの原理 スポーツ・マーケティング論 スポーツ倫理学 スポーツ行政論 スポーツ組織文化論 スポーツ・マネジメント論【注1】 スポーツビジネス論【注1】 障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論(応用) 学校保健 スポーツ心理学 スポーツ統計情報処理 スポーツ健康科学グローバル演習	スポーツ経済学 スポーツ人類学 スポーツ・メディア論 障がい者スポーツ指導論 健康教育学 高齢者スポーツ論 スポーツ健康外国書講読Ⅰ・Ⅱ	
	C群：応用科目	スポーツ方法実習 スポーツ健康科学特殊講義Ｓ	スポーツ指導法実習 スポーツ健康科学応用演習		
	D群：隣接科目	スポーツ健康科学のための自然科学入門A スポーツ健康科学のための自然科学入門B 現代社会論 児童・家庭福祉論（2021年度以降生） 児童福祉論Ⅰ（2020年度以前生） 児童福祉論Ⅱ（2020年度以前生） 発達と学習の心理学	生物学 学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ) 生理心理学(神経・生理心理学)(2023年度以前生) 生理心理学(神経・生理心理学Ⅰ)(2024年度以降生) 学校心理学(教育・学校心理学) 健康心理学(健康・医療心理学) 生化学 内科学概論（2025年度以前生） 臨床医学概論２（2026年度以降生） 外科学概論(病態生理学)(2025年度以前生) 臨床医学概論３（2026年度以降生） 臨床解剖学概論		
	E群：教育関連科目	人権教育論	教育社会学（2018年度生） 学校教育社会学 視聴覚教育（2018年度生） 保健体育科教育法Ａ１ 保健体育科教育法Ａ２ 教育方法とICT活用の理論と実践(2022年度以降生) 教育方法論（2021年度以前生）	保健体育科教育法Ｂ 保健体育科教育法Ｃ	
	F群： 全学共通教養教育科目	同志社科目 キャリア形成支援科目（2024年度以前生） ライフデザイン科目（2025年度以降生） 国際教養科目	クリエイティブ・ジャパン科目 プロジェクト科目（2024年度以前生） 複合領域科目（2024年度以前生） トピック科目（2025年度以降生）	人文科学系科目 社会科学系科目 自然・人間科学系科目（2024年度以前生） 自然科学系科目（2025年度以降生）	人間科学系科目（2025年度以降生） 外国語教育科目 保健体育科目（スポーツ・パフォーマンスⅠ） 他学部設置科目 他

【注1】2023年度以前生は3年次から配当

6-2 開講科目

● 開講科目一覧表の見方

科目名・クラス

科目名が同じで、クラス番号が違う科目は特別に認められている科目を除いて、２クラス以上履修することはできません。

校　　地

授業が開講される校地を表します。

田　　：京田辺校地
今　　：今出川校地
交流セ　：大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）
リト　　：同志社びわこリトリートセンター
インタ　：インターネット授業

期間・時間

授業の開講される期間と週時間を表します。

〈例〉
春２　　：春学期に開講。週２時間（週１コマ）
秋２　　：秋学期に開講。週２時間（週１コマ）
春・秋２：春学期、秋学期を通して開講。週２時間（週１コマ）
春・集中：春学期に集中科目として開講。

履修年次

履修ができる学年を示します。

２～　　：２年次以上で履修できる科目です。

他学部生履修　（表示では「他学部生」）

他学部の学生の履修可否を表します。「可」の表示がある科目は、他学部の学生も履修できます。

聴講生履修　（表示では「聴講生」）

聴講生の履修可否を表します。「可」の表示がある科目は、聴講生も履修できます。

※他学部で開講される科目の履修について

スポーツ健康科学部生が他学部で開講される科目を履修すると、修得した単位数はＦ群（全学共通教養教育科目）に算入されます。他学部開講科目で登録履修が可能な科目は「スポーツ健康科学部時間割表」（別紙）に掲載しています。ただし、配当年次や履修条件が設定されている場合や、当該科目が自由科目として取り扱われている場合がありますので、必ず当該学部の履修要項やシラバスを参照してください。

2018年度以降生用

スポーツ健康科学部　開講科目

〇必修科目〈基礎科目・演習科目〉

〇選択科目A群（基幹科目）

〇選択科目B群（展開科目）

〇選択科目C群（応用科目）

〇選択科目D群（隣接科目）

〇選択科目E群（教育関連科目）

〇選択科目F群（全学共通教養教育科目）

※別冊『全学共通教養教育科目履修要項』、別冊『日本語・日本文化教育科目履修の手引き』参照

〇自由科目

〈2018年度以降生用〉

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
必修科目（基礎科目）	1～	11500501	ファースト・イヤー・セミナー	005	2	井澤　鉄也	田	春2	希望申請を基に大学が一括して登録する。詳細は『登録要領』を参照すること。	不可	不可
				006		田附　俊一					
				007		柳田　昌彦					
				010		石井好二郎					
				011		竹田　正樹					
				012		二宮　浩彰					
				013		石倉　忠夫					
				017		海老根直之					
				020		福岡　義之					
				025		庄子　博人					
				027		松倉　啓太					
				032		新井　　彩					
				038		大澤　晴太					
				039		西牧　未央					
				040		小木曽　湧					
				041		笠井　信一					
				042		田城　　翼					
		11500011	スポーツ健康科学論入門		2	石井好二郎 小木曽　湧 笠井　信一	田	春2		＊1	不可
		11502001	生理学		2	福岡　義之 井澤　鉄也	田	春2		＊1	不可
		11500012	スポーツ生理学		2	竹田　正樹	田	秋2		＊1	不可
		11501005	スポーツ社会学		2	二宮　浩彰	田	春2		＊1	不可
	2～	11500013	基礎実習		2	石井好二郎 海老根直之 若原　　卓 庄子　博人 上林　清孝 福岡　義之 中村　康雄 髙倉　久志 新井　　彩 小木曽　湧 田城　　翼 久米　大祐	田	春6		不可	不可
必修科目（演習科目）	3～	11500004	演習Ⅰ	006	2	田附　俊一	田	春2	選考で決定したクラスを登録すること。	不可	不可
				007		柳田　昌彦					
				008		北條　達也					
				010		石井好二郎					
				011		竹田　正樹					
				012		二宮　浩彰					
				013		石倉　忠夫					
				014		中村　康雄					
				017		海老根直之					
				020		福岡　義之					
				021		髙倉　久志					
				022		上林　清孝					
				023		若原　　卓					
				025		庄子　博人					
				029		河西　正博					
				032		新井　　彩					
				036		岩田昌太郎					
				039		西牧　未央					
				040		小木曽　湧					

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
必修科目（演習科目）	3～	11500005	演習Ⅱ	006	2	田附　俊一	田	秋2	選考で決定したクラスを登録すること。 春学期登録期間に必ず登録すること。	不可	不可
				007		柳田　昌彦					
				008		北條　達也					
				010		石井好二郎					
				011		竹田　正樹					
				012		二宮　浩彰					
				013		石倉　忠夫					
				014		中村　康雄					
				017		海老根直之					
				020		福岡　義之					
				021		髙倉　久志					
				022		上林　清孝					
				023		若原　　卓					
				025		庄子　博人					
				029		河西　正博					
				032		新井　　彩					
				036		岩田昌太郎					
				039		西牧　未央					
				040		小木曽　湧					
	4～	11500006	演習Ⅲ	005	2	井澤　鉄也	田	春2	「演習Ⅰ・Ⅱ」と同じ担当者のクラスを登録すること。	不可	不可
				006		田附　俊一					
				007		柳田　昌彦					
				008		北條　達也					
				010		石井好二郎					
				011		竹田　正樹					
				012		二宮　浩彰					
				013		石倉　忠夫					
				014		中村　康雄					
				017		海老根直之					
				020		福岡　義之					
				021		髙倉　久志					
				022		上林　清孝					
				023		若原　　卓					
				025		庄子　博人					
				027		松倉　啓太					
				029		河西　正博					
				032		新井　　彩					
				036		岩田昌太郎					
		11500007	演習Ⅳ	005	2	井澤　鉄也	田	秋2	「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と同じ担当者のクラスを登録すること。 春学期登録期間に必ず登録すること。	不可	不可
				006		田附　俊一					
				007		柳田　昌彦					
				008		北條　達也					
				010		石井好二郎					
				011		竹田　正樹					
				012		二宮　浩彰					
				013		石倉　忠夫					
				014		中村　康雄					
				017		海老根直之					
				020		福岡　義之					
				021		髙倉　久志					
				022		上林　清孝					
				023		若原　　卓					
				025		庄子　博人					
				027		松倉　啓太					
				029		河西　正博					
				032		新井　　彩					
				036		岩田昌太郎					

〈2018年度以降生用〉

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
必修科目（演習科目）	4～	11500009	卒業研究Ａ	005	3	井澤　鉄也	田	春集中	「演習Ⅰ～Ⅳ」と同じ担当者のクラスを登録すること。	不可	不可
				006		田附　俊一					
				007		柳田　昌彦					
				008		北條　達也					
				010		石井好二郎					
				011		竹田　正樹					
				012		二宮　浩彰					
				013		石倉　忠夫					
				014		中村　康雄					
				017		海老根直之					
				020		福岡　義之					
				021		髙倉　久志					
				022		上林　清孝					
				023		若原　　卓					
				025		庄子　博人					
				027		松倉　啓太					
				029		河西　正博					
				032		新井　　彩					
				036		岩田昌太郎					
		11500010	卒業研究Ｂ	005	3	井澤　鉄也	田	秋集中	「演習Ⅰ～Ⅳ」、「卒業研究Ａ」と同じ担当者のクラスを登録すること。 春学期登録期間に必ず登録すること。	不可	不可
				006		田附　俊一					
				007		柳田　昌彦					
				008		北條　達也					
				010		石井好二郎					
				011		竹田　正樹					
				012		二宮　浩彰					
				013		石倉　忠夫					
				014		中村　康雄					
				017		海老根直之					
				020		福岡　義之					
				021		髙倉　久志					
				022		上林　清孝					
				023		若原　　卓					
				025		庄子　博人					
				027		松倉　啓太					
				029		河西　正博					
				032		新井　　彩					
				036		岩田昌太郎					
選択科目Ａ群	1～	11502008	健康運動論		2	石井好二郎	田	秋2		可	可
		11501006	スポーツ政策論		2	庄子　博人	田	春2		可	可
	2～	11501002	公衆衛生学		2	柳田　昌彦	田	春2		可	可
		11501007	スポーツ運動学		2	田附　俊一	田	春2		可	可
		11501008	トレーニング論		2	新井　　彩	田	春2		可	可
		11502037	スポーツ教育学		2	岩田昌太郎	田	春2		可	可

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
選択科目B群	1～	11502010	スポーツ機能解剖学		2	中村　康雄	田	秋2		可	可
	2～	11433001	生命医科学概論	001	2	野口　範子 西川喜代孝 舟本　聡 小林　聡 齋藤　直人 髙橋　美帆 米井　嘉一 浦野　泰臣 池川　雅哉 角田　伸人 和久　剛 三田雄一郎 西川　恵三 斎藤　芳郎 一條　遼	田	春2			
				002		野口　範子 西川喜代孝 舟本　聡 小林　聡 齋藤　直人 髙橋　美帆 米井　嘉一 浦野　泰臣 池川　雅哉 角田　伸人 和久　剛 三田雄一郎 西川　恵三 斎藤　芳郎 一條　遼	田	秋2			
		11433008	人体の構造と機能Ⅰ	001	2	一條　遼 野土　信司 池川　雅哉 田中　雅樹 卜部　諭 浅沼光太郎 山下　修司 西川　恵三 松田　賢一 角　謙介	田	春2			
				002		一條　遼 野土　信司 池川　雅哉 田中　雅樹 卜部　諭 浅沼光太郎 山下　修司 西川　恵三 松田　賢一 角　謙介	田	秋2			
		11502002	スポーツ医学Ａ（内科系）		2	岡田　有史	田	秋2		可	可
		11502003	スポーツ医学Ｂ（外科系）		2	北條　達也	田	春2		可	可
		11502004	生活習慣病概論		2	北條　達也	田	秋2		可	可
		11502005	発育発達と老化		2	石井好二郎	田	春2		可	可
		11502006	栄養学		2	木村　祐子	田	春2		可	可
		11502023	学校保健		2	栁田　昌彦	田	秋2		可	可
		11502007	スポーツ栄養学		2	海老根直之	田	秋2		可	可
		11502051	スポーツ測定評価論		2	西牧　未央	田	春2		可	可
		11502011	スポーツ・バイオメカニクス		2	中村　康雄	田	春2		可	可
		11502012	コンディショニング論		2	笠井　信一	田	秋2		可	可
		11502014	スポーツ心理学		2	石倉　忠夫	田	春2		可	可
		11502016	スポーツの原理		2	佐々木浩雄	田	秋2		可	可
		11502052	メンタル・トレーニング論		2	石倉　忠夫	田	秋2		可	可

〈2018年度以降生用〉

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
選択科目B群	2～	11502035	コーチング論		2	松倉　啓太	田	春2		可	可
		11502053	スポーツ・マーケティング論		2	二宮　浩彰	田	秋2		可	可
		11502021	障がい者スポーツ論		2	河西　正博	田	春2		可	可
		11502022	障がい者スポーツ論（応用）	001	2	河西　正博	田	秋2	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊2	不可
				002		河西　正博	田	秋2			
				003		河西　正博	田	秋2			
		11502024	スポーツ統計情報処理	001	2	中村　康雄	田	春2	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	不可	不可
				002		中村　康雄	田	春2			
				003		中村　康雄	田	秋2			
				004		中村　康雄	田	秋2			
		11502025	スポーツ倫理学		2	小坂　美保	田	春2		可	可
		11502027	スポーツ・トピックスⅠ		2	有吉　忠一	田	春2		可	可
		11502028	スポーツ・トピックス２		2	北條　達也	田	秋2		可	可
		11502039	スポーツ行政論		2	齋藤　健司	インタ	秋2		可	可
		11502049	インターンシップ演習	001	2	髙倉　久志	田	秋集中	登録方法については、『登録要領』を参照すること。	不可	不可
				002		髙倉　久志	田	秋集中			
				003		髙倉　久志	田	秋集中			
		11502050	スポーツ組織文化論		2	有吉　忠一	田	春2		可	可
		11502057	身体運動制御論		2	上林　清孝	田	秋2		可	可
		11502058	スポーツ生体ダイナミクス		2	若原　　卓	田	秋2		可	可
		11502054	スポーツ生化学		2	井澤　鉄也	田	春2	2024年度以降生対象	可	可
		11502041	スポーツビジネス論		2	庄子　博人	田	秋2	2024年度以降生対象	可	可
		11502055	スポーツ・マネジメント論		2	小木曽　湧	田	春2	2024年度以降生対象	可	可
		11502062	環境生理学		2	福岡　義之	田	秋2	2024年度以降生対象	可	可
		11502063	スポーツ分子生物学		2	髙倉　久志	田	秋2	2024年度以降生対象	可	可
		11502064	スポーツ健康科学グローバル演習		2	橘　　未都	田	秋2	英語により講義を行う。先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	不可	不可
	3～	11502009	健康教育学		2	柳田　昌彦	田	秋2		可	可
		11433014	ヒトの病理と防御システムⅠ		2	角田　伸人	田	春2			
		11502029	リハビリテーション医学		2	北條　達也	田	春2		可	可
		11502054	スポーツ生化学		2	井澤　鉄也	田	春2	2023年度以前生対象	可	可
		11433020	薬理学		2	西川喜代孝	田	春2			
		11502033	精神保健論		2	田中　芳幸	田	秋2		可	可
		11503004	スポーツマッサージ・テーピング論		2	田城　　翼	田	秋2		可	可
		11502044	高齢者スポーツ論		2	休講					
		11502036	競技者育成システム論		2	西牧　未央	田	秋2		可	可
		11502040	スポーツ経済学		2	有吉　忠一	田	秋2		可	可
		11502041	スポーツビジネス論		2	庄子　博人	田	秋2	2023年度以前生対象	可	可
		11502042	スポーツ人類学		2	渡邉　昌史	田	秋2		可	可
		11502043	スポーツ・メディア論		2	国貞　仁志	田	春2		可	可
		11502055	スポーツ・マネジメント論		2	小木曽　湧	田	春2	2023年度以前生対象	可	可
		11502056	障がい者スポーツ指導論		2	河西　正博	田	春2	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊2	不可
		11502047	スポーツ健康外国書講読Ⅰ		2	笠井　信一	田	春2		可	可
		11502048	スポーツ健康外国書講読Ⅱ		2	有吉　忠一	田	秋2		可	可
		11502062	環境生理学		2	福岡　義之	田	秋2	2023年度以前生対象	可	可
		11502063	スポーツ分子生物学		2	髙倉　久志	田	秋2	2023年度以前生対象	可	可
		11502059	スポーツ健康科学特殊講義Ａ	001	2	相川　大輔	田	春2		不可	不可
				002		相川　大輔	田	秋2			
				003		有吉　忠一	田	春2			
		11502060	スポーツ健康科学特殊講義Ｂ		2	休講					

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
選択科目C群Ⅰ類	Ⅰ～	11503101	スポーツ方法実習（フィットネス）	001	1	林　郁子	田	春2	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊1	不可
				002		林　郁子	田	春2			
				003		港野　恵美	田	春2			
				004		港野　恵美	田	春2			
				005		辻　桃子	田	春2			
				006		港野　恵美	田	春2			
				007		港野　恵美	田	春2			
				008		林　郁子	田	秋2			
				009		港野　恵美	田	秋2			
				010		辻　桃子	田	秋2			
				011		港野　恵美	田	秋2			
				012		港野　恵美	田	秋2			
		11503102	スポーツ方法実習（器械運動）	001	1	寺地祐次郎	田	春2		＊1	不可
				002		寺地祐次郎	田	春2			
				003		寺地祐次郎	田	春2			
				004		寺地祐次郎	田	秋2			
				005		寺地祐次郎	田	秋2			
		11503105	スポーツ方法実習（水泳）	001	1	立　正伸	田	春2		＊1	不可
				002		立　正伸	田	春2			
				003		栗山　晶代	田	春2			
				004		栗山　晶代	田	春2			
		11503106	スポーツ方法実習（バスケットボール）	001	1	三木　力雄	田	春2		＊1	不可
				002		三木　力雄	田	春2			
				003		三木　力雄	田	秋2			
				004		三木　力雄	田	秋2			
		11503107	スポーツ方法実習（バレーボール）	001	1	渡辺　英児	田	春2		＊1	不可
				002		渡辺　英児	田	春2			
				003		渡辺　英児	田	秋2			
		11503108	スポーツ方法実習（サッカー）	001	1	西田　裕之	田	春2		＊1	不可
				002		西田　裕之	田	春2			
				003		望月　慎之	田	春2			
				004		松倉　啓太	田	秋2			
		11503109	スポーツ方法実習（卓球）	001	1	小野　誠治	田	春2		＊1	不可
				002		小野　誠治	田	春2			
				003		小野　誠治	田	春2			
				004		池袋　晴彦	田	春2			
				005		藤井　優子	田	春2			
				006		池袋　晴彦	田	秋2			
				007		藤井　優子	田	秋2			
				008		藤井　優子	田	秋2			
		11503110	スポーツ方法実習（テニス）	001	1	溝口　貴子	田	春2		＊1	不可
				002		木内　真弘	田	春2			
				003		木内　真弘	田	春2			
				004		溝口　貴子	田	秋2			
				005		木内　真弘	田	秋2			
		11503111	スポーツ方法実習（柔道）	001	1	黒澤　寛己	田	春2		＊1	不可
				002		尾原　弘恭	田	春2			
				003		尾原　弘恭	田	秋2			
		11503112	スポーツ方法実習（剣道）	001	1	今江　貞彦	田	春2		＊1	不可
				002		栁田　昌彦	田	春2			
				003		今江　貞彦	田	秋2			
		11503113	スポーツ方法実習（ダンス）	001	1	北島　順子	田	春2		＊1	不可
				002		北島　順子	田	春2			
				003		北島　順子	田	秋2			
		11503115	スポーツ方法実習（ゴルフ）	001	1	菅生　貴之	田	春2		＊2	不可
				002		菅生　貴之	田	春2			
				003		竹田　正樹	田	春2			
				004		竹田　正樹	田	春2			
				005		竹田　正樹	田	春2			
				006		竹田　正樹	田	春2			
				007		菅生　貴之	田	秋2			
				008		菅生　貴之	田	秋2			
				009		竹田　正樹	田	秋2			
				010		竹田　正樹	田	秋2			
				011		竹田　正樹	田	秋2			
		11503117	スポーツ方法実習（バドミントン）	001	1	海老根直之	田	春2		＊1	不可
				002		海老根直之	田	春2			
				003		河西　正博	田	秋2			

〈2018年度以降生用〉

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
選択科目C群Ⅰ類	1～	11503118	スポーツ方法実習（フェンシング）		1	休講					
		11503119	スポーツ方法実習（陸上競技）	001	1	田附　俊一	田	春2		＊1	不可
				002		笠井　信一	田	春2			
				003		小倉　幸雄	田	秋2			
				004		髙倉　久志	田	秋2			
		11503120	スポーツ方法実習（ウォータースポーツ）		1	二宮　浩彰 海老根直之	田	春集中		不可	不可
		11503121	スポーツ方法実習（ソフトテニス）		1	休講					
		11503122	スポーツ方法実習（ニュースポーツ）		1	二宮　浩彰	田	春2		不可	不可
		11503124	スポーツ方法実習（レスリング）		1	西牧　未央	田	秋2		不可	不可
		11503125	スポーツ方法実習(フィジカルトレーニング)		1	西牧　未央	田	秋2		不可	不可
	2～	11503114	スポーツ方法実習（スキー）		1	休講					
		11503123	スポーツ方法実習（スノースポーツ）		1	竹田　正樹 若原　卓 新井　彩 岩田昌太郎	田	秋集中	4年次生は原則として登録できない。先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊2	不可
		11503116	スポーツ方法実習（野外活動）		1	蓬田　高正	田	春集中	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊2	不可
		11503201	スポーツ指導法実習（フィットネス）	001	1	林　郁子	田	秋2	同種目のスポーツ方法実習を履修済のこと。先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊1	不可
				002		港野　恵美	田	秋2			
				003		休講					
		11503202	スポーツ指導法実習（器械運動）		1	寺地祐次郎	田	秋2		＊1	不可
		11503205	スポーツ指導法実習（水泳）		1	栗山　晶代	田	秋2		＊1	不可
		11503206	スポーツ指導法実習（バスケットボール）		1	三木　力雄	田	秋2		＊1	不可
		11503207	スポーツ指導法実習（バレーボール）		1	渡辺　英児	田	秋2		＊1	不可
		11503208	スポーツ指導法実習（サッカー）		1	望月　慎之	田	秋2		＊1	不可
		11503209	スポーツ指導法実習（卓球）		1	池袋　晴彦	田	秋2		＊1	不可
		11503210	スポーツ指導法実習（テニス）		1	木内　真弘	田	秋2		＊1	不可
		11503211	スポーツ指導法実習（柔道）		1	尾原　弘恭	田	秋2		＊1	不可
		11503212	スポーツ指導法実習（剣道）		1	柳田　昌彦	田	秋2		＊1	不可
		11503213	スポーツ指導法実習（ダンス）		1	北島　順子	田	秋2		＊1	不可
		11503214	スポーツ指導法実習（スキー）		1	休講					
		11503223	スポーツ指導法実習（スノースポーツ）		1	竹田　正樹 若原　卓 新井　彩 岩田昌太郎	田	秋集中	4年次生は原則として登録できない。先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊2	不可
		11503215	スポーツ指導法実習（ゴルフ）		1	竹田　正樹	田	秋2	同種目のスポーツ方法実習を履修済のこと。先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	＊2	不可
		11503216	スポーツ指導法実習（野外活動）		1	休講					
		11503217	スポーツ指導法実習（バドミントン）		1	海老根直之	田	秋2		＊1	不可
		11503219	スポーツ指導法実習（陸上競技）		1	田附　俊一	田	秋2		＊1	不可
選択科目C群Ⅱ類	1～	11502061	スポーツ健康科学特殊講義S	002	2	田附　俊一	田	春集中	開講前年度の3月に募集と決定を行うため、原則として1年次生は登録できない。	＊2	不可
				003		石倉　忠夫	田	秋集中	春学期期間中に募集を行う。4年次生は原則として登録できない。		
	2～	11503301	スポーツ健康科学応用演習	005	2	井澤　鉄也 髙倉　久志	田	秋2	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。	不可	不可
				006		田附　俊一	田	秋2			
				014		中村　康雄	田	秋2			
				017		海老根直之	田	秋集中			
				020		福岡　義之	田	秋2			
				022		上林　清孝 若原　卓	田	秋2			
				027		松倉　啓太	田	秋2			
				032		新井　彩	田	秋2			

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
選択科目D群	1～	11504002	スポーツ健康科学のための自然科学入門A		2	中村　康雄	田	春2		不可	不可
		11504003	スポーツ健康科学のための自然科学入門B		2	井澤　鉄也 髙倉　久志	田	春2		不可	不可
		10912002	現代社会論		2	遠藤　英樹	今	秋2			
		10922211	児童・家庭福祉論		2	履修不可					
		10922175	児童福祉論Ⅰ		2	履修不可					
		10922176	児童福祉論Ⅱ		2	履修不可					
		15010030	発達と学習の心理学	001	2	内山伊知郎	田	秋2			
				002		田中　希穂	田	春2			
				003		田中　希穂	田	秋2			
				004		山口　洋介	田	春2			
				005		石井　僚	田	秋2			
				051		内山伊知郎	今	春2			
				052		田中　希穂	今	春2			
				053		山口　洋介	今	秋2			
				054		羽野ゆつ子	今	秋2			
				055		山口　洋介	今	春2			
				056		田中　希穂	今	秋2			
	2～	11433002	生物学	001	2	髙橋　美帆 和久　剛 山下　修司 三田雄一郎	田	春2			
				002		髙橋　美帆 和久　剛 山下　修司 三田雄一郎	田	秋2			
		11700211	生理心理学（神経・生理心理学）		2	畑　敏道	田	春2	2023年度以前生対象		
		11700216	生理心理学（神経・生理心理学Ⅰ）		2	畑　敏道	田	春2	2024年度以降生対象		
		11700212	学習心理学（学習・言語心理学Ⅰ）		2	青山謙二郎	田	秋2			
		11700317	健康心理学（健康・医療心理学）		2	柴田　利男	インタ	春2	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。		
		11700415	学校心理学（教育・学校心理学）		2	神山　貴弥	田	春2			
	3～	11422015	生化学	001	2	髙橋　美帆 浦野　泰臣 和久　剛 山下　修司 三田雄一郎 西川　恵三	田	春2			
				002		髙橋　美帆 浦野　泰臣 和久　剛 山下　修司 三田雄一郎 西川　恵三	田	秋2			
		11433103	内科学概論		2	一條　遼 祝迫　恵子	田	春2	2025年度以前生対象		
		11433132	臨床医学概論２		2	一條　遼 祝迫　恵子	田	春2	2026年度以降生対象		
		11433117	外科学概論（病態生理学）		2	山崎　純也 中田　雅支 志馬　伸朗 祝迫　恵子 波多野悦朗 沼田　智 井津上典洋 記村　聡子 中村　美紀 小西　恵理 竹本　研史	田	秋2	2025年度以前生対象「人体の構造と機能Ⅰ」を登録した経歴があるか同一年度に登録していること。		
		11433118	臨床医学概論３		2	山崎　純也 中田　雅支 志馬　伸朗 祝迫　恵子 波多野悦朗 沼田　智 井津上典洋 記村　聡子 中村　美紀 小西　恵理 竹本　研史	田	秋2	2026年度以降生対象「人体の構造と機能Ⅰ」を登録した経歴があるか同一年度に登録していること。		
		11411162	臨床解剖学概論		2	奥村　直毅	田	春2			

〈2018年度以降生用〉

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
選択科目E群	1～	15010060	人権教育論	001	2	李　元重 望月　詩史 田中　希穂 他	田	秋2			
	2～	10912116	教育社会学		2	履修不可			2018年度生対象		
		15010050	学校教育社会学	001	2	野村　洋平	田	春2			
				051		高山　育子	今	春2			
				052		高山　育子	今	秋2			
		15010100	視聴覚教育		2	休講			2018年度生対象		
		11505001	保健体育科教育法Ａ１		2	岩田昌太郎	田	春2		＊1	不可
		11505002	保健体育科教育法Ａ２		2	岩田昌太郎	田	秋2		＊1	不可
		15010111	教育方法とICT活用の理論と実践	001	2	岡本　真彦	田	秋2	2022年度以降生対象 001、003～005、053クラスは先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。		
				002		田中　希穂	田	春2			
				003		岡本　真彦	田	春2			
				004		岡本　真彦	田	春2			
				005		岡本　真彦	田	秋2			
				051		平野　哲司	今	春2			
				052		田中　希穂	今	春2			
				053		沼田　　潤	今	秋2			
				054		池田　恭浩	今	秋2			
				055		平野　哲司	今	春2			
		15010110	教育方法論	001	2	岡本　真彦	田	秋2	2021年度以前生対象 001、003～005、053クラスは先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。		
				002		田中　希穂	田	春2			
				003		岡本　真彦	田	春2			
				004		岡本　真彦	田	春2			
				005		岡本　真彦	田	秋2			
				051		平野　哲司	今	春2			
				052		田中　希穂	今	春2			
				053		沼田　　潤	今	秋2			
				054		池田　恭浩	今	秋2			
				055		平野　哲司	今	春2			
	3～	11505003	保健体育科教育法Ｂ		2	岩田昌太郎	田	春2		＊1	不可
		11505004	保健体育科教育法Ｃ		2	岩田昌太郎	田	秋2		＊1	不可
選択科目F群			同志社科目 キャリア形成支援科目【2024年度以前生】 ライフデザイン科目【2025年度以降生】 国際教養科目 クリエイティブ・ジャパン科目 複合領域科目【2024年度以前生】 トピック科目【2025年度以降生】 人文科学系科目 社会科学系科目 自然・人間科学系科目【2024年度以前生】 自然科学系科目【2025年度以降生】 人間科学系科目【2025年度以降生】 外国語教育科目 保健体育科目						詳細については別冊『全学共通教養教育科目履修要項』を参照すること。 保健体育科目の取扱いについては次のとおり。 「スポーツ・パフォーマンス１」 2単位まで卒業単位に含むことができる。2単位を超えて修得した単位はGPAには算入されるが、卒業単位には算入されない。 「スポーツ・健康の科学A、B、C」 自由科目扱いとなり、修得した単位については卒業単位には参入されない（免許資格の取得には有効）。		
			他学部設置科目 同志社女子大学単位互換科目 大学コンソーシアム京都単位互換科目 テュービンゲン大学ＩＥＳ科目								

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
自由科目	1～	15010010	教職概論	001	2	中瀬　浩一	田	秋2			
				002		井上　浩史	田	春2			
				003		沖田　悟傳	田	春2			
				004		沖田　悟傳	田	春2			
				005		井上　浩史	田	秋2			
				051		井上　浩史	今	秋2			
				052		井上　浩史	今	秋2			
				053		沖田　悟傳	今	春2			
				054		中瀬　浩一	今	秋2			
				055		井上　浩史	今	春2			
				056		中瀬　浩一	今	春2			
		15010020	教育原理	001	2	佐藤　光友	田	春2			
				002		佐藤　光友	田	秋2			
				003		佐藤　光友	田	秋2			
				051		榎本　恵理	今	春2			
				052		榎本　恵理	今	秋2			
				053		和田　充弘	今	春2			
				054		森口　洋一	今	秋2			
				055		長谷川精一	今	秋2			
				056		長谷川精一	今	春2			
		15010151	特別ニーズ教育論	001	2	廣中　嘉隆	田	秋2	2019年度以降生対象		
				002		中瀬　浩一	田	春2			
				003		廣中　嘉隆	田	秋2			
				004		中瀬　浩一	田	春2			
				051		中瀬　浩一	今	春2			
				052		中瀬　浩一	今	秋2			
				053		中瀬　浩一	今	春2			
				054		中瀬　浩一	今	秋2			
				055		中瀬　浩一	今	春2			
				056		中瀬　浩一	今	秋2			
		15010150	特別支援と福祉の教育	001	2	廣中　嘉隆	田	秋2	2018年度生対象		
				002		中瀬　浩一	田	春2			
				003		廣中　嘉隆	田	秋2			
				004		中瀬　浩一	田	春2			
				051		中瀬　浩一	今	春2			
				052		中瀬　浩一	今	秋2			
				053		中瀬　浩一	今	春2			
				054		中瀬　浩一	今	秋2			
				055		中瀬　浩一	今	春2			
				056		中瀬　浩一	今	秋2			

〈2018年度以降生用〉

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
自由科目	2～	15010160	スクールインターンシップ	001	2	柳澤　彰紀	田	春集中 秋集中	先行登録科目であるので、『登録要領』を参照すること。登録時に「教職概論」を履修済であること。スクールインターンシッププログラムガイドに記載の応募条件を満たすこと。		
				051		稲田　雅巳	今	春集中 秋集中			
		15010070	教育課程論	001	2	佐藤　光友	田	春2			
				002		田中　曜次	田	春2			
				003		佐藤　光友	田	秋2			
				051		佐藤　光友	今	春2			
				052		児玉　祥一	今	秋2			
				053		奥野　浩之 佐藤　光友	今	春2			
				054		奥野　浩之	今	秋2			
				055		佐藤　光友	今	秋2			
		15010041	教育制度と学校経営	001	2	柳澤　彰紀	田	春2	2019年度以降生対象		
				002		沖田　悟傳	田	秋2			
				051		柳澤　彰紀	今	春2			
				052		柳澤　彰紀	今	春2			
				053		沖田　悟傳	今	秋2			
		15010040	学校経営と法規	001	2	柳澤　彰紀	田	春2	2018年度生対象		
				002		沖田　悟傳	田	秋2			
				051		柳澤　彰紀	今	春2			
				052		柳澤　彰紀	今	春2			
				053		沖田　悟傳	今	秋2			
		15010080	道徳教育の理論と実践	001	2	宮本　　慧	田	春2			
				002		山口　洋介	田	春2			
				003		山口　洋介	田	秋2			
				051		和田　充弘	今	春2			
				052		那倉　康知	今	秋2			
				053		山口　洋介	今	春2			
				054		山口　洋介	今	秋2			
				055		和田　充弘	今	秋2			
		15010091	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	001	2	稲田　雅巳	田	春2	「特別活動論」を未履修かつ未登録であること。 「特別活動論」を履修済で、卒業後に大学院生または科目等履修生として一種免許を取得する予定の者は、免許資格関係科目（M登録）としてのみ登録できる。履修を希望する者は、事前に免許資格課程センターに申し出ること。		
				002		井上　浩史	田	秋2			
				003		柳澤　彰紀	田	秋2			
				051		柳澤　彰紀	今	春2			
				052		稲田　雅巳	今	春2			
				053		稲田　雅巳	今	秋2			
				054		柳澤　彰紀	今	秋2			
				055		長谷川　豊	今	秋2			
		15010090	特別活動論		2	休講			2018年度生対象		
		15010120	生徒・進路指導の理論と方法	001	2	神山　貴弥	田	秋2			
				002		稲田　雅巳	田	秋2			
				003		山本　桂子	田	春2			
				004		井上　浩史	田	春2			
				051		稲田　雅巳	今	春2			
				052		稲田　雅巳	今	春2			
				053		井上　浩史	今	秋2			
				054		井上　浩史	今	春2			
				055		山本　桂子	今	秋2			
	3～	15010141	教育相談の理論と方法	001	2	石川　信一	田	春2	2019年度以降生対象		
				002		市来百合子	田	春2			
				003		牧　　郁子	田	秋2			
				051		藤井　恭子	今	秋2			
				052		河﨑　俊博	今	秋2			
				053		河﨑　俊博	今	春2			
				054		松原　耕平	今	春2			
		15010130	教育相談		2	休講			2018年度生対象		

スポーツ健康科学部　開講科目一覧表

科目群	履修年次	科目コード	科目名	クラス	単位	担当者	校地	期間時間	履修条件など	他学部生	聴講生
自由科目	3～	15010140	学校カウンセリング	001	2	石川　信一	田	春2	2018年度生対象		
				002		市来百合子	田	春2			
				003		牧　郁子	田	秋2			
				051		藤井　恭子	今	秋2			
				052		河﨑　俊博	今	秋2			
				053		河﨑　俊博	今	春2			
				054		松原　耕平	今	春2			
		11507009	健康運動指導実習		1	柳田　昌彦 竹田　正樹 田城　翼 岡田　有史	田	春集中	受講は健康運動指導士資格取得予定者に限り、受講後に健康産業施設での現場研修参加を義務付ける。登録方法については、『登録要領』を参照すること。	不可	不可
		11507001	教育実習Ａ	001	2	岩田昌太郎	田	春秋集中	履修を希望する場合は事前に免許資格課程センター事務室まで相談すること。	不可	不可
				002		松倉　啓太	田	春秋集中			
	4～	11507007	教職実践演習（中・高）	001	2	岩田昌太郎 稲田　雅巳 内山伊知郎 中瀬　浩一	田	秋2	「教育実習Ｂ」もしくは「教育実習Ｃ」、ならびに「教職実践演習（中・高）」「教育実習指導」はセット登録すること。登録クラスは指定されているので、登録前に確認すること。	不可	不可
				002		稲田　雅巳 岩田昌太郎 内山伊知郎 中瀬　浩一	田	秋2			
		11507008	教育実習指導	001	1	岩田昌太郎	田	春秋1		不可	不可
				002		松倉　啓太	田	春秋1			
		11507005	教育実習Ｂ	001	2	岩田昌太郎	田	春秋集中		不可	不可
				002		松倉　啓太	田	春秋集中			
		11507006	教育実習Ｃ	001	4	岩田　昌太郎	田	春秋集中		不可	不可
				002		松倉　啓太	田	春秋集中			

＊1：他学部生の受講に関しては、原則として免許・資格取得を目的とする場合に限る。

〈公益財団法人日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース希望者〉

京田辺キャンパス教務センター（スポーツ健康科学部）へ申し出ること。

・スポーツ健康科学論入門
・スポーツ生理学
・スポーツ社会学

〈教職免許希望者〉

免許資格課程センター事務室へ申し出ること。

・スポーツ生理学
・スポーツ社会学
・生理学
・スポーツ方法実習（ゴルフ、スノースポーツ、野外活動、フェンシング、ウォータースポーツ、ソフトテニス、ニュースポーツを除く）
・スポーツ指導法実習（ゴルフ、スノースポーツ、野外活動を除く）
・保健体育科教育法ＡⅠ
・保健体育科教育法Ａ2
・保健体育科教育法Ｂ
・保健体育科教育法Ｃ

＊2：原則としてスポーツ健康科学部生を優先とする。但し定員に空きがあるクラスに限り他学部生の受講を認める。
なお、スポーツ健康科学特殊講義Ｓについては他学部生の受講可否について、担当教員が定める。

F群について…全学共通教養教育科目および、日本語・日本文化教育科目（外国人留学生のみ履修可能）の開講科目については、別冊の履修要項を参照のこと。
他学部科目の開講科目については、他学部の履修要項を参照のこと。

７．外国語による科目の開講について

外国語による科目の開講について

外国語による授業科目として、下記科目が開講されている。※

開講校地	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
今	10110219 (10103147)		アメリカ史における宗教 -American Society and Religion-	GAVIN J.CAMPBELL	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う ( ) 内は 2024 年度以前生
今	10103752		ヒッタイト王国史演習 -『紀元前２千年紀におけるヒッタイト王国史』入門 -	ADA TAGGAR-COHEN	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	10103754		古代近東学入門 - 古代近東の文化史入門 -	ADA TAGGAR-COHEN	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10103857		ユダヤ女性演習 -ヘブライ語聖書とユダヤ教における女性 -	ADA TAGGAR-COHEN	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	10912301		Contemporary Japanese Culture and Society	Mattias Van Ommen	秋学期	4	4	2～	英語により授業を行う
今	10932148		国際コミュニケーション論	BRIAN COVERT	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	10952140		Education and World Culture (1)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10952141		Education and World Culture (2)	WILLIAM ROBERT STEVENSON III	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10952162		Topics in Education and Development	乾　美紀	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (社会学部 2018 年度以降生および ILA 所属学生のみ登録可)
今	10952163		Topics in Character Formation and Education	本間桃里	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10952180		Topics in Multiculturalism and Education	柴川真由美	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可)
今	10307414		アメリカ法	COLIN P.A. JONES	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308851	001	Japanese Constitution	東川浩二	春学期	集中	2	3～	英語により授業を行う (2022年度以前生のみ登録可)
今	10308855	001	American Law	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308855	002	American Law	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308855	003	American Law	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308856	001	Asian Law	黄　ジン霆	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308856	002	Asian Law	JANG JUNHYOK	春学期	集中	2	3～	英語により授業を行う
今	10308857	001	European Law	植松真生	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308858	001	Current Issues in Comparative Law	高橋宏司	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308858	002	Current Issues in Comparative Law	張　皓程	春学期	集中	2	3～	英語により授業を行う
今	10308858	003	Current Issues in Comparative Law	西谷祐子	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308859	001	International Law	新井　京	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308860	001	International Arbitration	高橋宏司	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308861	001	International Institutions and Global Law	植松真生	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308862	004	Current Issues in Global Law	張　皓程	秋学期	集中	2	3～	英語により授業を行う
今	10308863		International Commercial Arbitration Moot 1	前川直輝	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う

開講校地	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
今	10308864		International Commercial Arbitration Moot 2	廣　田　　浩	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308867	001	Japanese Law	東　川　浩　二	春学期	集中	2	3～	英語により授業を行う（2023年度以降生のみ登録可）
今	10308875		Public Opinion and Political Participation in Japan	西　澤　由　隆	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10308876		Development and Democracy in East Asia	森　下　明　子	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う
今	10403323	403	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2 －ロシアの天然資源開発－	TAMARA LITVINENKO	秋	2	2	Ⅰ～	英語により授業を行う（2020年度以降生のみ登録可）
今	10403323	404	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2 －東北アジアのエネルギー資源開発と鉱山開発－	TAMARA LITVINENKO	秋	2	2	Ⅰ～	英語により授業を行う（2020年度以降生のみ登録可）
今	10403323	408	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2 －海外留学をめざす人のための準備講座：留学成功の秘訣－	TAMARA LITVINENKO	秋	2	2	Ⅰ～	英語により授業を行う（2020年度以降生のみ登録可）
今	10407323	403	エコノミクス・ワークショップ2 －ロシアの天然資源開発－	TAMARA LITVINENKO	秋	2	2	Ⅰ～	英語により授業を行う（2019年度以前生のみ登録可）
今	10407323	404	エコノミクス・ワークショップ2 －東北アジアのエネルギー資源開発と鉱山開発－	TAMARA LITVINENKO	秋	2	2	Ⅰ～	英語により授業を行う（2019年度以前生のみ登録可）
今	10407323	408	エコノミクス・ワークショップ2 －海外留学をめざす人のための準備講座：留学成功の秘訣－	TAMARA LITVINENKO	秋	2	2	Ⅰ～	英語により授業を行う（2019年度以前生のみ登録可）
今	10403324	914	エコノミクス・ワークショップ・アドバンスト -【応】コンテンポラリー・スタディーズⅠ（経済地理）-	TAMARA LITVINENKO	秋	2	2	3～	英語により授業を行う（経済学部 2020年度以降生のみ登録可）
今	10522645	000	Shopping and Swapping: Cultures of Consumption and Exchange	JOSHUA HOTAKA ROTH	春学期	2	2	3～	英語による講義
今	10523620	001	専門外国語特講 -1 International Business Communication: Engaging with Diversity in Global Business Contexts	佐　藤　研　一	春学期	2	2	3～	英語による講義（商学部生のみ登録可）
今	10523620	002	専門外国語特講 -2 Analysis of Japanese Companies	小　林　一　雅	秋学期	2	2	3～	英語による講義（商学部生のみ登録可）
今	10523620	003	専門外国語特講 -3 Analysis of Japanese Companies	小　林　一　雅	秋学期	2	2	3～	英語による講義（商学部生のみ登録可）
今	10702004	019	アカデミック・スキル2（イシュードリブン） 「英語による政策リサーチ入門」	辻　　優太郎	春学期	2	2	2	英語により授業を行う（政策学部生のみ登録可）
海外	10702648	028	政策トピックス - ㉘ 「持続可能性を実現する通商ガバナンスのあり方：サステナブル認証の役割と今後」	岡　本　由美子	秋学期	集中	2	2～	英語により授業を行う
田	11610202		技術英語Ⅰ	IVAN TANEV	春学期	2	1	3～	英語により授業を行う（理工学部インテリジェント情報工学科生のみ登録可）
田	11615046		技術英語	IVAN TANEV	秋学期	2	2	3～	英語により授業を行う（理工学部情報システムデザイン学科生のみ登録可）
田	11615084		マルチエージェント工学	IVAN TANEV	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う（理工学部情報システムデザイン学科生のみ登録可）
田	11615113		インテリジェントアルゴリズム	IVAN TANEV	春学期	2	2	3～	英語により授業を行う（理工学部情報システムデザイン学科生のみ登録可）
田	11502064		スポーツ健康科学グローバル演習（スポーツを通して実践英語を身に着けよう）	橘　　未　都	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う（スポーツ健康科学部 2018年度以降生のみ登録可）
今	12232708		南北アメリカ地域文化特論 3	SUSANNA PAVLOSKA	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う（2017年度以前生のみ登録可）
今	12232724		南北アメリカ地域の文化 4	SUSANNA PAVLOSKA	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	12234051		Global and Regional Cultural Studies Seminar 1	MATTHEW LARKING	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う（グローバル地域文化学部生のみ登録可）

開講校地	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
今	12234053		Global and Regional Cultural Studies Seminar 3	DAVID PERRIE MCCURRACH	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う（グローバル地域文化学部生のみ登録可）
今	12234054		Global and Regional Cultural Studies Seminar 4	LAVIGNE ANTHONY GIACEMO	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う（グローバル地域文化学部生のみ登録可）
今	16000200	000	ジョイント・セミナー 比較文化論	AYSUN UYAR	秋学期	4	4	2～	主に英語により授業を行う
今	16000205	053	日本の伝統と芸能	高　永　珍	春学期	2	2	1～	コリア語により授業を行う（2017年度以前生のみ登録可）
今	16000215	052	日本とアジア２	高　永　珍	秋学期	2	2	1～	コリア語により授業を行う
今	（クラスにより異なる）		スタンフォード大学科目	（複数クラス開講）	春学期 秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（複数クラス開講） 春学期科目は２年次生以上が登録可能 秋学期科目は開講予定
今	（クラスにより異なる）		ＡＫＰ科目	（複数クラス開講）	春学期 秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（複数クラス開講） 春学期科目は２年次生以上が登録可能 秋学期科目は開講予定
今	（クラスにより異なる）		ＫＣＪＳ科目	（複数クラス開講）	春学期 秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（複数クラス開講） 春学期科目は２年次生以上が登録可能 秋学期科目は開講予定
今	16606500	051	テュービンゲン大学科目	MICHAEL WACHUTKA	春学期	2	2	1～	ドイツ語により授業を行う
今	16606500	052	テュービンゲン大学科目	MICHAEL WACHUTKA	秋学期	2	2	1～	ドイツ語により授業を行う
田	16000702	001	Introduction to Japanese Culture in the Global Context	土井ベンソン　アンヤ	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000702	002	Introduction to Japanese Culture in the Global Context	土井ベンソン　アンヤ	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000702	051	Introduction to Japanese Culture in the Global Context	土井ベンソン　アンヤ	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000702	052	Introduction to Japanese Culture in the Global Context	DIAZ SANCHO IVAN	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000703	001	Introduction to Japanese Society in the Global Context	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000703	051	Introduction to Japanese Society in the Global Context	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000703	052	Introduction to Japanese Society in the Global Context	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000704	001	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有　井　　健	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000704	002	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有　井　　健	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000704	051	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有　井　　健	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000704	052	Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	有　井　　健	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000705	001	Humanities and Global Issues	土井ベンソン　アンヤ	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000705	051	Humanities and Global Issues	土井ベンソン　アンヤ	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000705	052	Humanities and Global Issues	ESTA TINA OTTMAN	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000706		Social Sciences and Global Issues	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	2～	英語により授業を行う
田	16000707	001	Natural Sciences and Global Issues	有　井　　健	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う

開講校地	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
今	16000707	051	Natural Sciences and Global Issues	有　井　　健	春学期	2	2	2～	英語により授業を行う
今	16000708	051	Japan in Modern World History	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000708	052	Japan in Modern World History	DIAZ SANCHO IVAN	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000709	051	International Relations in the Postwar Era	GARTH WARRIES	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000709	052	International Relations in the Postwar Era	GARTH WARRIES	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000710	001	Issues in Japanese Culture	土井ベンソン　アンヤ	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000710	051	Issues in Japanese Culture	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000710	052	Issues in Japanese Culture	土井ベンソン　アンヤ	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000711	001	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000711	051	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000212	001	日本の思想・宗教 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000212	052	日本の思想・宗教 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
田	16000712	001	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000712	051	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000213	001	日本の思想・宗教 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000213	052	日本の思想・宗教 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
田	16000713	001	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000713	051	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000207	002	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000207	054	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
田	16000714	001	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
今	16000714	051	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可)
田	16000207	001	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000207	053	日本の伝統と芸術	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000216	051	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	16000216	052	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	16000217	051	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
今	16000217	052	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可)
田	16000715	001	Democracy and Politics : A Comparative Perspective	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う

開講校地	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
今	16000715	051	Democracy and Politics : A Comparative Perspective	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000716	001	Education in the Age of Globalization	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000716	051	Education in the Age of Globalization	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000717	001	Issues in Intercultural Communication	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000717	051	Issues in Intercultural Communication	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000718		Economy and Business in the Global Context 1	森　宏一郎	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000719	051	Economy and Business in the Global Context 2	森　宏一郎	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000719	052	Economy and Business in the Global Context 2	DANYL MIGDALSKYI	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000720	051	Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	ESTA TINA OTTMAN	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016年度以降生のみ登録可)
今	16000720	052	Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	ESTA TINA OTTMAN	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2016年度以降生のみ登録可)
今	16000218	051	日本の社会事情	ESTA TINA OTTMAN	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000218	052	日本の社会事情	ESTA TINA OTTMAN	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可)
今	16000721	051	Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	ESTA TINA OTTMAN	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000721	052	Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	ESTA TINA OTTMAN	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000723	051	The Divisions of Identity in Society	安　武　留　美	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う 学部所属正規学生(2016年度以降生)
今	16000211	051	アイデンティティの社会格差	安　武　留　美	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う 学部所属正規一般学生(2015年度以前生)
今	16000723	052	The Divisions of Identity in Society	GARTH WARRIES	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う 学部所属正規学生(2016年度以降生)
今	16000211	052	アイデンティティの社会格差	GARTH WARRIES	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う 学部所属正規一般学生(2015年度以前生)
田	16000724	001	Statistics for the Social Sciences and Humanities	DANYL MIGDALSKYI	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000724	051	Statistics for the Social Sciences and Humanities	MYGDALSKYY VOLODYMYR	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000725		Introduction to Computer Science and Information Technology	MYGDALSKYY VOLODYMYR	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16000726	001	Human Science in the Global Age	DANYL MIGDALSKYI	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000726	051	Human Science in the Global Age	DANYL MIGDALSKYI	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000727		Introduction to Quantitative Data Analysis	DANYL MIGDALSKYI	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000728		Conservation of Japanese Nature and Environment	有　井　　健	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000729		Mathematics and its History	VILLE JOONAS JOHANNES SYRJAENEN	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000730		Science of Natural Disasters	有　井　　健	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000731		Principles of Economics	森　宏一郎	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000732		Environmental Economics and Sustainability	森　宏一郎	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う

開講校地	登録コード 科目	登録コード クラス	科目名・クラス	担当者	期間	週時間	単位	配当年次	備考
今	16091201	051	Advanced Seminar 1	土井ベンソン　アンヤ	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16091201	052	Advanced Seminar 1	土井ベンソン　アンヤ	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16091202	051	Advanced Seminar 2	ROBERT WILLIAM ASPINALL	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16091202	052	Advanced Seminar 2	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
田	16091203	001	Advanced Seminar 3	有　井　　健	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16091203	051	Advanced Seminar 3	有　井　　健	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う
今	16000803	053	日本の伝統と芸能	高　　永　珍	春学期	2	2	1～	コリア語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
田	16000806	001	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000806	051	Japanese Thought and Religion 1	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
田	16000807	001	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000807	051	Japanese Thought and Religion 2	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
田	16000808	001	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000808	051	Tradition and Art in Japan 1	IGNACIO ARISTIMUNO	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
田	16000809	001	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000809	051	Tradition and Art in Japan 2	IGNACIO ARISTIMUNO	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000810	051	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000810	052	Japan Today 1	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000811	051	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	春学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）
今	16000811	052	Japan Today 2	OMAR YUSEF BAKER	秋学期	2	2	1～	英語により授業を行う（2018年度以降生のみ登録可）

※ 先行登録が必要な科目があります。各学部の履修要項・登録要領で確認すること。
※ 学部によっては履修できない科目や記載されている配当年次では履修できない場合があります。必ず自分が所属する学部の履修要項・登録要領で確認すること。
※ 文学部およびグローバル・コミュニケーション学部の一部の授業科目ならびに国際教育インスティテュートの授業科目は外国語で開講されているが、この表には記載していない。

※「日本語・日本文化教育科目」、「外国語による科目」についてわからないことがあれば、所属の学部・研究科事務室、各キャンパスの教務センターで相談すること。

8．資格について

スポーツ健康科学部で取得できる資格について

スポーツ健康科学部において所定の科目の単位を修得し、資格取得試験を受験し、合格することで、以下の資格を手に入れることができます（一部、受験不要の資格もあります）。

入学から卒業までの４年間のあいだに、必要な科目の履修ならびに資格取得に必要な手続きを行ってください。入学年度や資格ごとに手続きや履修科目が異なりますので、資格取得を希望される方は京田辺キャンパス教務センター（スポーツ健康科学部）にお立ち寄りください。

●公益財団法人　日本スポーツ協会　公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース

公益財団法人日本スポーツ協会は、生涯を通じた「快適なスポーツライフ」を実現するため、社会の多様なニーズに応えることのできるスポーツ指導者の養成を行い、一定の基準を満たした者を公認スポーツ指導者として資格認定しています。本学は同協会の免除適応コース承認校となっており、所定のカリキュラムを修了することで、以下の資格が取得できるほか、同協会が養成するその他の資格を取得するうえで必要となる「共通科目」が免除されます。

コーチングアシスタント（スポーツリーダー）

資格概要：地域におけるスポーツグループやサークル等において、上位資格者を補佐する者として、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。

備　　考：他学部生も申請することができます。

スポーツプログラマー

資格概要：地域スポーツクラブ等において、プレーヤーのフィットネスの維持や向上のための指導及び助言を行う方のための資格です。

●公益財団法人　健康・体力づくり事業財団　健康運動指導士養成校制度

健康運動指導士は、昭和63年から厚生大臣の認定事業として、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、生活習慣病を予防し、健康水準を保持･増進する観点から大きく貢献しています。病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業等で活躍する人材の増加にともない、平成18年度からは、公益財団法人健康･体力づくり事業財団独自の事業として継続して実施しています。本学は、同財団の健康運動指導士養成校として認定されており、所定のカリキュラムを修了することで、以下の資格が取得できます。

健康運動指導士

資格概要：健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者をいいます。

●公益財団法人　日本パラスポーツ協会　公認パラスポーツ指導者制度

公認パラスポーツ指導者制度は、パラスポーツの振興のため、指導者の資質向上を図り、組織的連携をもとに指導体制を確立することを目的にしています。本学は、公益財団法人日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者制度の資格取得認定校となっており、所定のカリキュラムを修了することで、以下の資格が取得できます。

初級パラスポーツ指導員

資格概要：障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員。健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担います。

中級パラスポーツ指導員

資格概要：地域のパラスポーツ振興のリーダーとして、指導現場で充分な知識や経験に基づいた指導をする指導者。地域のスポーツ大会や行事において中心となり、地域のパラスポーツの普及・振興を進める役割を担います。

同 志 社 大 学 学 則

（2026年４月１日改正）

第１章　総　　則

第１条　本学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第１条の２　本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

２　点検及び評価に関する規程は、別に定める。

３　本学は、第１項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

４　本学は、第１項及び前項に規定する点検及び評価の結果並びに認証評価の結果を公表するとともに、教育研究活動等について不断の見直しを行う。

第１条の３　本学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

第２条　本学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。

２　大学院に関する学則は、別にこれを定める。

第２条の２　本学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第２章　学　　部

第１節　修業年限、学年、学期及び休業日

第３条　学部の修業年限は、４年とする。

２　在学年限は、８年を超えることができない。

第４条　削除

第５条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終る。

２　学年を次の２学期に分ける。

春学期　４月１日から９月20日まで

秋学期　９月21日から翌年３月31日まで

第６条　休業日は、次のとおりとする。

⑴　日曜日

⑵　「国民の祝日に関する法律」に定める休日

⑶　創立記念日　11月29日

⑷　キリスト降誕日　12月25日

⑸　夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。

２　前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第２節　学部学科等の組織

第７条　本学に、次の学部学科を置く。

神学部
- 神学科

文学部
- 英文学科
- 哲学科
- 美学芸術学科
- 文化史学科
- 国文学科

社会学部
- 社会学科
- 社会福祉学科
- メディア学科
- 産業関係学科
- 教育文化学科

法学部
- 法律学科
- 政治学科

経済学部
- 経済学科

商学部
- 商学科

政策学部
- 政策学科

文化情報学部
- 文化情報学科

理工学部
- インテリジェント情報工学科
- 情報システムデザイン学科
- 電気工学科
- 電子工学科
- 機械システム工学科
- 機械理工学科
- 機能分子・生命化学科
- 化学システム創成工学科
- 環境システム学科
- 数理システム学科

生命医科学部
- 医工学科
- 医情報学科
- 医生命システム学科

スポーツ健康科学部
- スポーツ健康科学科

心理学部
- 心理学科

グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル・コミュニケーション学科

グローバル地域文化学部
- グローバル地域文化学科

第７条の２　削除

第７条の３　本学にキリスト教文化センターを置く。

２　キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。

第７条の４　本学にハリス理化学研究所を置く。

２　ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。

第７条の５　削除

第７条の６　本学に歴史資料館を置く。

２　歴史資料館に関する規程は、別に定める。

第７条の７　削除

第７条の８　本学に全学共通教養教育センターを置く。

２　全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

第７条の９　本学に国際教育インスティテュートを置く。
２　国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。
第７条の10　本学に免許資格課程センターを置く。
２　免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。
第７条の11　本学に学習支援・教育開発センターを置く。
２　学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。
第７条の12　削除
第７条の13　削除
第７条の14　本学に国際教養教育院を置く。
２　国際教養教育院に関する規程は、別に定める。

第３節　教育課程及び履修方法

第８条　各学部学科の教育課程は、各学部学科が学校教育法施行規則第165条の２第１項第１号及び第２号により定める方針に基づき編成し、履修方法とともに別表Ⅱにこれを定める。
第８条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
２　本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
３　本学は、第１項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
第８条の３　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
第９条　学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。
２　教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。
３　授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。
⑴　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑵　実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑶　第１号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前２号に規定する基準を考慮して本学が定める。
４　前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。
第９条の２　本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。
２　第27条の２により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。
３　外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前２項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。
第９条の３　本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
２　前項の単位数は、前条第１項、第２項及び第３項と合わせて60単位を超えないものとする。
第９条の４　本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学において修得したものとして認定することができる。
２　本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
３　前２項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第９条の２第１項、第２項及び第３項並びに前条第１項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
第９条の５　第８条の２第２項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。
第９条の６　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示する。
２　本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。
第10条　削除

第４節　単位の授与及び成績評価

第11条　一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。
第12条　削除
第13条　学修の成果に係る評価は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については学修の成果に係る評価を、合格又は不合格で評価することができる。
第14条　疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験日の翌日から起算して３日以内に願い出れば、追試験を行うことがある。

第５節　卒業及び学位の授与

第15条　学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、３年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学、法学、政治学、経済学、商学、政策学、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、グローバル・コミュニケーション学、グローバル地域文化学、国際教養）

２　前項に規定する学位には、「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第６節　収容定員及び教育研究実施組織

第16条　各学部の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部学科別	入学定員	編入学定員	収容定員
神学部	63名		252名
神学科	63名		252名
文学部	705名		2,820名
英文学科	315名		1,260名
哲学科	70名		280名
美学芸術学科	70名		280名
文化史学科	125名		500名
国文学科	125名		500名
社会学部	442名		1,768名
社会学科	90名		360名
社会福祉学科	98名		392名
メディア学科	88名		352名
産業関係学科	87名		348名
教育文化学科	79名		316名
法学部	893名		3,572名
法律学科	683名		2,732名
政治学科	210名		840名
経済学部	893名		3,572名
経済学科	893名		3,572名
商学部	893名		3,572名
商学科	893名		3,572名
政策学部	420名		1,680名
政策学科	420名		1,680名
文化情報学部	294名		1,176名
文化情報学科	294名		1,176名
理工学部	756名	20名	3,064名
インテリジェント情報工学科	83名	2名	336名
情報システムデザイン学科	83名	2名	336名
電気工学科	80名	2名	324名
電子工学科	86名	2名	348名
機械システム工学科	96名	2名	388名
機械理工学科	70名	2名	284名
機能分子・生命化学科	83名	2名	336名
化学システム創成工学科	83名	2名	336名
環境システム学科	51名	2名	208名
数理システム学科	41名	2名	168名
生命医科学部	265名		1,060名
医工学科	100名		400名
医情報学科	100名		400名
医生命システム学科	65名		260名
スポーツ健康科学部	221名		884名
スポーツ健康科学科	221名		884名
心理学部	158名		632名
心理学科	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学部	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学科	158名		632名
（うち、英語コース	85名		340名）
グローバル地域文化学部	190名		760名
グローバル地域文化学科	190名		760名
計	6,351名	20名	25,444名

第17条　本学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。
2　本学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。
3　本学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。
第17条の2　削除
第18条　本学に、学長を置く。
2　学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。
3　学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。
4　学長に関し必要な事項は、別に定める。
第18条の2　本学に、副学長を置く。
2　副学長に関し必要な事項は、別に定める。
第18条の3　本学に、学部長を置く。
2　学部長は、学部に関する校務をつかさどる。
第18条の4　本学に、機構長、部長、所長、館長、室長等を置く。
第18条の5　本学に、学長補佐を置くことができる。
2　学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。
第18条の6　本学に、その事務を遂行するため、職員を置く。
2　事務組織に関する規程は、別に定める。
第19条　本学の各学部に教授会を置く。
2　教授会は、学部に関する次の事項を審議する。
(1)　学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項
(2)　教育課程に関する事項
(3)　教員の人事に関する事項
(4)　学則、学部諸規程に関する事項
(5)　その他学部長がつかさどる教育研究に関する事項
3　教授会は、学長から諮問された事項について審議する。
4　教授会は、学生の入学、卒業及び学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
5　教授会の組織及び運営に関する事項は、各学部教授会において定める。
第19条の2　本学に部長会を置く。
2　大学及び各学部に共通する重要事項は、部長会で審議する。
3　部長会に関する規定は、別に定める。
第19条の3　本学に大学評議会を置く。
2　大学評議会は、本学の中長期的方針に関わる事項を審議し、その達成状況を検証する。
3　大学評議会に関する規則は、別に定める。
第19条の4　本学に大学教授会を置く。
2　大学教授会は、大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

第7節　入学、転入学、編入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

第20条　入学の時期は、学年の始めとする。ただし、学部が必要とする時には、入学の時期を学期の始めとすることができる。
第21条　学部第1年次に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。
(1)　高等学校卒業者
(2)　中等教育学校卒業者
(3)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
(4)　高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めたもの
(5)　大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者
第22条　前条の資格を有する入学志願者について、各学部が学校教育法施行規則第165条の2第1項第3号により定める方針に基づき、高等学校卒業程度の入学試験を行い、入学を許可する。
第23条　学部第2年次及び第3年次では、第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。
2　第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。
(1)　大学第2年次修了者
(2)　短期大学卒業者
(3)　高等専門学校卒業者
(4)　専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
(5)　短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者
(6)　高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
3　第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。
(1)　大学第1年次修了者
(2)　外国の大学において前号に準じる課程を修了した者
4　第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。
5　第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学生及び編入学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。
第24条　入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Ⅰの5に定める入学検定料を納入しなければならない。
2　災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

3　前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第25条　入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

2　本学の複数の学部・学科・コース（以下「学部等」という。）の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。

3　前項の振替の詳細は、別に定める。

第26条　連帯保証人は１名とし、父又は母（父母のいない者は、これにかわる親戚等）とする。

2　連帯保証人は、その学生の在籍中、本学学費及び本学に損害を与えた場合の損害賠償等の債務につき、極度額の範囲において連帯保証しなければならない。極度額は別表Ⅰに定める学費１年分とする。

3　連帯保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。

4　連帯保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに連帯保証人を定めて届け出なければならない。

第27条　学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。

2　休学期間は、１年又は半年とする。

3　休学の期間は、通算して４年を超えることができない。ただし、母国における兵役義務による休学は、この期間に算入しない。

4　休学期間は、第３条並びに第23条第４項及び第５項に定める修業年限、在学年限には算入しない。

第27条の２　学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。

2　留学の期間は、第３条並びに第23条第４項及び第５項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。

3　留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第28条　学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、その旨願い出なければならない。

第29条　学長は、学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、諭旨退学させることがある。

第30条　学長は、品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処すことができる。

2　前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第30条の２　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第１号については、春学期末卒業予定者は春学期末、それ以外の者は該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第２号並びに第３号については、該当学期末に除籍する。

⑴　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

⑵　在学期間が第３条第２項並びに第23条第４項及び第５項に規定する在学年限を超える者

⑶　学費未納で履修科目の登録をしていない者

第30条の３　退学者及び前条第１項第１号又は第３号により除籍された者が、連帯保証人連署のうえ、再入学を願い出た場合は、それを許可することがある。

なお、除籍された者が再入学を願い出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第30条の４　再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第８節　科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

第31条　各学部等に設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、科目等履修生とすることができる。

2　科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

第32条　科目等履修生が履修した授業科目について試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価を受け合格したときは、所定の単位を与える。

2　前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第33条　削除

第34条　削除

第35条　各学部に設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認めた者につき、聴講生とすることができる。

第36条　聴講生に関する内規は、別に定める。

第36条の２　外国人留学生に関する内規は、別に定める。

第９節　学　　費

第37条　在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

2　外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

3　履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

第38条　学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む。）、教育充実費、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの４にこれを定める。

2　協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本学から１学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

3　休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

4　第31条第２項に定める、協定に基づき本学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

5　いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

6　履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

7　退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

8　第30条第１項に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条　やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

2　前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の２　本学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

2　前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の３　災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

2　前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第３章　附　属　施　設

第40条　図書館を設け、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報等を系統的に整備し、教育研究を促進する。

2　大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条　寄宿舎を設け、一部学生を入舎させる。

第42条　学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

附　則

1　この学則は、2005年４月１日から施行する。

2　第27条第３項の規定は、1989年度入学生から適用する。

3　第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。

4　第７条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年４月１日から改正施行する。

5　第７条は、学部第２部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第１部、法学部第１部、経済学部第１部、商学部第１部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年４月１日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部に昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年４月１日から改正施行する。

なお、各学部の第２部は、当該学部の第２部に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（1997年４月１日改正）

6　第７条、第16条は、神学部に神学科、経済学部に経済学科、商学部に商学科の学科名明示により、1999年４月１日から改正施行する。（1999年４月１日改正）

7　第７条、第16条は、文学部社会学科新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更、政策学部政策学科、工学部情報システムデザイン学科及び環境システム学科の設置により2004年４月１日から改正施行する。（2004年４月１日改正）

8　第７条は、文学部の改組・再編による文化学科、社会学科及び各学科内の専攻の廃止、それに伴う文学部哲学科、心理学科、美学芸術学科、文化史学科、国文学科及び社会学部社会学科、社会福祉学科、メディア学科、産業関係学科、教育文化学科の設置並びに文化情報学部文化情報学科の設置により2005年４月１日から改正施行する。

第16条は、文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース、夜間主コースの廃止により2005年４月１日から改正施行する。

なお、廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは、2005年度より学生募集を停止する。ただし、各学科・専攻及びコースは、当該学科・専攻及びコースに在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（2005年４月１日改正）

9　第13条に規定する試験の成績評価は、2004年度第1年次入学生から適用し、2003年度以前の入学生については、従前の規程による。

10　第15条に規定する学位は、2005年度第１年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、従前の規程による。

11　第30条の３に規定する再入学は、2004年度第１年次入学生から適用する。

12　第８条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2005年度第１年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

13　第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2005年度入学生に適用する。 2004年度以前の入学生については、従前の学費による。

14　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、休学在籍料については、2003年度以降在学の学生に適用する。ただし、2002年度以前の入学生のうち、従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は、その額とする。

附　則

1　この学則は、2006年４月１日から施行する。

2　第7条及び第16条は、工学部知識工学科の名称変更により、改正・施行する。なお、知識工学科は、2006年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規定は、従前によるものとする。

3　第８条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2006年度第１年次入学生から適用し、2005年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4　第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2006年度入学生に適用する。2005年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2007年４月１日から施行する。

2　第16条は、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース、夜間主コースの廃止により、改正・施行する。なお、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2007年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第８条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2007年度第１年次入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007年度入学生に適用する。2006年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2008年4月1日から施行する。

2　第7条は、理工学部数理システム学科、生命医科学部医工学科、医情報学科、医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の設置並びに工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により、改正・施行する。

第16条は、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コー

スの廃止、理工学部数理システム学科、生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。

なお、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は、2008年度より学生募集を停止する。ただし、各学部・学科及びコースは、当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2008年度第1年次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4　第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008年度入学生に適用する。2007年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2009年4月1日から施行する。

2　第7条は、心理学部心理学科の設置及びそれにともなう文学部心理学科の廃止により、改正・施行する。

第16条は、心理学部心理学科の設置及びこれに伴う文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2009年度第1年次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

4　第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009年度入学生に適用する。2008年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2010年4月1日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2010年度第1年次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

3　第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2011年4月1日から施行する。

2　第7条及び第16条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。

3　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011年度第1年次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附　則

1　この学則は、2012年4月1日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012年度第1年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附　則

1　この学則は、2013年4月1日から施行する。

2　第７条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

第16条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013年度第1年次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附　則

1　この学則は、2014年4月1日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附　則

この学則は、2014年11月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、2015年4月1日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2016年4月1日から施行する。

2　留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課定表による。

4　第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

この学則は、2016年５月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、2017年4月1日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第１年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

この学則は、2017年10月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、2018年4月1日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第１年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2019年4月1日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2019年度第１年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。

なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年４月１日以降に再入学する学生に適用する。

4　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年４月１日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附　則

1　この学則は、2020年４月１日から施行する。

2　第７条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。

なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020年度第１年次入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

4　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020年度入学生に適用する。2019年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2021年４月１日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2021年度第１年次入学生から適用し、2020年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附　則

1　この学則は、2022年４月１日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2022年度第１年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第26条に規定する連帯保証人は、2022年度第１年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　則

1　この学則は、2023年４月１日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2023年度第１年次入学生から適用し、2022年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第26条第２項に規定する極度額は、2023年度第１年次入学生から適用する。2022年度の入学生については、従前の規定による。

4　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、 入学金、 授業料及び教育充実費については、2023年度入学生に適用する。2022年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2024年４月１日から施行する。

2　第７条の14は、 国際教養教育院の設置並びにこれに伴う第７条の７に定める日本語・日本文化教育センター及び第７条の12に定めるグローバル教育センターの廃止により、改正・施行する。なお、日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、2024年度より学生の新規受入れを停止する。ただし、日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、当該センターに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

3　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2024年度第１年次入学生から適用し、2023年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

4　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、 入学金、 授業料及び教育充実費については、2024年度入学生に適用する。2023年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2025年４月１日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2025年度第１年次入学生から適用し、2024年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、 入学金、 授業料及び教育充実費については、2025年度入学生に適用する。2024年度以前の入学生については、従前の学費による。

附　則

1　この学則は、2026年４月１日から施行する。

2　第８条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2026年度第１年次入学生から適用し、2025年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

3　第38条第１項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2026年度入学生に適用する。2025年度以前の入学生については、従前の学費による。

別表Ⅰ　学　費

入学金、授業料及び教育充実費　（年額）

		入学金	授業料	教育充実費
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	第１年次	200,000円	803,000円	167,000円
	第２年次		1,003,000円	167,000円
	第３年次		1,003,000円	167,000円
	第４年次		1,003,000円	167,000円
文化情報学部	第１年次	200,000円	916,000円	180,000円
	第２年次		1,116,000円	180,000円
	第３年次		1,116,000円	180,000円
	第４年次		1,116,000円	180,000円
理工学部（数理システム学科を除く）生命医科学部	第１年次	200,000円	1,320,000円	252,000円
	第２年次		1,520,000円	252,000円
	第３年次		1,520,000円	252,000円
	第４年次		1,520,000円	252,000円
理工学部（数理システム学科）	第１年次	200,000円	1,243,000円	252,000円
	第２年次		1,443,000円	252,000円
	第３年次		1,443,000円	252,000円
	第４年次		1,443,000円	252,000円
スポーツ健康科学部	第１年次	200,000円	949,000円	180,000円
	第２年次		1,149,000円	180,000円
	第３年次		1,149,000円	180,000円
	第４年次		1,149,000円	180,000円
心理学部	第１年次	200,000円	968,000円	188,000円
	第２年次		1,168,000円	188,000円
	第３年次		1,168,000円	188,000円
	第４年次		1,168,000円	188,000円
グローバル・コミュニケーション学部	第１年次	200,000円	918,000円	188,000円
	第２年次		1,118,000円	188,000円
	第３年次		1,118,000円	188,000円
	第４年次		1,118,000円	188,000円

⑴ 授業料及び教育充実費については、各々２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。
⑵ ４年を超えて在籍した場合（再修生）の学費は、第４年次の学費を適用する。
⑶ 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料及び教育充実費は、転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は２分の１とする。
⑷ 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度４月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

特別在籍料

ダブルディグリープログラムによる留学期間	特別在籍料
１　年	300,000円
１学期	150,000円

休学在籍料

休学期間	休学在籍料
１　年	120,000円
半　年	60,000円

・母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表Ⅰの２　履修料

履修登録料	全　　学　　部	25,000円
履　修　料 （１単位につき）	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	22,000円
	文化情報、スポーツ健康科学部	24,000円
	理工、生命医科学部	32,000円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	25,000円

⑴ 履修料の総額が当該年度の第１年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
⑵ 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、２分の１とする。
⑶ 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
⑷ 複数の学部に併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの３　聴講料

聴講登録料	全　　学　　部	25,000円
聴　講　料 （１単位につき）	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	15,000円
	文化情報、スポーツ健康科学部	16,000円
	理工、生命医科学部	21,000円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	17,000円

⑴ 聴講料の総額が当該年度の第１年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
⑵ 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、２分の１とする。
⑶ 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
⑷ 複数の学部に併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表Ⅰの４　外国人留学生（特別学生）入学金及び研修料

	入　学　金	研　修　料（年額）	研　修　料 （年度内の在学期間が 7月以内の場合）
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	25,000円	440,000円	220,000円
文化情報学部 スポーツ健康科学部	25,000円	480,000円	240,000円
理工学部 生命医科学部	25,000円	640,000円	320,000円
心理学部 グローバル・コミュニケーション学部	25,000円	500,000円	250,000円
国際教養教育院	25,000円	666,000円	333,500円

⑴ 研修料については、２分の１を春学期学費及び秋学期学費とする。
⑵ 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
⑶ 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第４条第２項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
⑷ 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
⑸ 特別学生が、年度内に20単位（国際教養教育院は、30単位）（年度内の在学期間が7日以内の場合は10単位（国際教養教育院は15単位））を超えて学科目登録をする場合は、超過する分１単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録するときは学則別表Ⅰの２に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録するときは大学院学則別表Ⅰの２に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録するときは専門職大学院学則別表Ⅰの２に定める履修料相当額を、国際教養教育院科目を登録するときは学則別表Ⅰの２に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
⑹ 研修料の総額が当該年度の第１年次の授業料を超える場合は、その額にとどめる。

⑺ 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しないときがある。

別表Ⅰの５　入学検定料

区　　分			金　　額
一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験			35,000円
大学入学共通テストを利用する入学試験	個別学力検査を課す場合		25,000円
	個別学力検査を課さない場合		15,000円
アドミッションズオフィスによる入学者選抜		第１次審査	25,000円
		第２次審査	10,000円
推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験			35,000円
推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考		第１次選考	10,000円
		第２次選考	25,000円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験	書類選考および学部独自試験を課す場合		15,000円
	書類選考のみの場合		10,000円
グローバル・コミュニケーション学部（日本語コース）入学試験	書類選考および学部独自試験を課す場合		15,000円
	書類選考のみの場合		10,000円
国際教育インスティテュート（国際教養コース）入学試験			15,000円

別表Ⅱ　各学部人材養成目的及び教育課程表（省略）

学 部 一 般 内 規

（2024年4月1日改正）

学 年 暦

別に定める「学年暦」は、年間の行事を示し特別の通知・掲示がない限り、このとおり行われる。行事の詳細については、その都度指示する。

学籍番号

1　学生には、入学と同時に学籍番号が付与され、在学する期間を通じて変わらない。

2　第２年次転入学生及び編入学生には、第２年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。

3　第３年次転入学生及び編入学生には、第３年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。

4　再入学生には、再入学を許可された年次に該当する入学年度を冠した学籍番号が付与される。

学 生 証

1　学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯しなければならない。

2　学生証は、卒業、退学及び除籍の場合は、直ちに返納しなければならない。

3　学生証を紛失したときは、直ちに届け出て再交付を受けなければならない。ただし、別に定める手数料を納入することを要する。

4　学生証は、他人に貸与又は譲渡してはならない。

履修科目の登録

1　履修する科目は、学年暦に定められた期間に登録しなければならない。ただし、在学留学が認められた場合は、これによらないことがある。

2　合格となった科目は、再度登録履修することはできない。

3　各年次で登録履修できる単位数は、春学期及び秋学期合計50単位に満たない範囲内において学部の定めるところによる。

4　前項の規定にかかわらず、転入学生及び編入学生の登録履修できる最高単位数は、学部の定めるところによる。

成 績 評 価

1　成績評価は、学年暦に定められた期間に実施される期末試験、期末試験以外の評価に基づき、多面的に行われる。

2　成績は、成績原簿に記録される。

3　不合格となった科目を再履修し、合格となった場合は、直近の不合格の評価のみ改変される。

期 末 試 験

1　受験上の注意

(1)　学費未納のままでは受験できない。

(2)　未登録の授業科目は、受験できない。

(3)　授業日数の３分の２以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取り消すことがある。

(4)　試験には、必ず学生証を持参しなければならない。

(5)　試験に15分以上遅刻した者は、受験を許さない。また、試験開始後30分経過するまでは退室できない。

(6)　試験にかかる不正行為があって、当該学部教授会がそれを認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格とし、これを公表する。ただし、当該学部が定める科目については除く。

(7)　その他試験に関する注意事項等は別に定める。

(8)　上記(1)から(7)の注意事項は期末試験以外の評価に適用することがある。

2　追 試 験

(1)　病気又はやむを得ない事由のために、期末試験又は学部教授会が認める期末試験以外の評価を受けることができなかった者に追試験を行うことがある。やむを得ない事由は別に定める。

(2)　受験希望者は、追試験願を、当該科目試験日の翌日から起算して３日以内に提出しなければならない。ただし、課外活動のため受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。

(3)　追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければならない。必要な証明書類は別に定める。

(4)　追試験ごとに1,000円の追試験料を納入しなければならない。

届書・願書

届書及び願書には、次のようなものがある。

1　届　　書

(1)　欠　席　届　　授業科目担当者名明記、理由書（診断書等）添付のこと。

(2)　改 姓(名)届　　戸籍抄本添付のこと。

(3)　性 別 変 更 届　　戸籍抄本添付のこと。

(4)　住 所 変 更 届

(5)　連帯保証人変更届　　新旧連帯保証人併記のこと。

2　願　　書

(1)　休　学　願　　理由記載、適宜証明書類添付のこと。

(2)　退　学　願　　理由記載のこと。

(3)　再 入 学 願　　理由記載のこと。

(4)　通称名使用願　　診断書添付のこと。

⑸　旧姓名使用願　　戸籍抄本等、旧姓名を確認できる証明書類添付のこと。
⑹　在学留学願　　留学する大学の入学許可書添付のこと。
⑺　転学部･転学科願　　理由記載のこと。
⑻　追試験願　　理由及び受験科目名記載のこと。

以上の各種届書及び願書は、所定様式により提出する。必要によっては、当該学部教授会の審議を経て処理される。

教室使用願、物品使用願等は、願い出責任者を明記のうえ、教育支援機構教務部に提出すること。

再　入　学

1　退学日又は除籍日から５年以内は、当該学部教授会の審議を経て、再入学を許可する。５年を経過したときは、試験のうえ、教授会の判定によって再入学を許可する。
2　再入学の時期は、学期の始めとする。
3　再入学を許可する学部･学科等は、退学又は除籍時の学部･学科等とする。ただし、退学又は除籍時の学部・学科等が存在しない場合及び学生募集が停止されている場合は、当該学生の再入学願を審議する学部教授会は、学長が指定する。
4　再入学を許可する年次、修業年限及び在学年限は、再入学前に在籍していた期間により定める。
5　再入学生の教育課程は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同様とする。

転学部・転学科

1　転学部及び転学科は、やむを得ない事情の生じた場合に限り、第２年次から第３年次に進むとき、関係学部教授会の審議を経て許可することがある。なお、学部教授会が特に必要と認めた場合は、第１年次から第２年次に進むときも当該学部内において転学科を許可することがある。
2　いったん転学部・転学科を許可した学生の再転学部・転学科は認めない。
3　転学部・転学科願書の受付期限は秋学期講義最終日とし、許可決定の時期は、当該年度の終わりとする。

学士入学

学士入学は、転入学・編入学試験を受けなければならない。ただし、本学卒業生は、同一学部学科への学士入学は認められない。

免許資格課程登録料

免許資格課程を登録する者は、次の各号の免許資格課程登録料を納入しなければならない。
⑴　教職課程　30,000円
⑵　博物館学芸員課程　10,000円
⑶　図書館司書課程　10,000円

2　免許資格課程登録料の詳細は、別に定める。

教育実習費

教育実習を登録する者は、登録と同時に実習費を納めなければならない。

諸　会　費

本学が代理徴収を行う学会、父母会及び卒業生団体の諸会費は、所定の期日までに納入しなければならない。

定期健康診断

学生は、毎年、学期始めに行う定期健康診断を必ず受けなければならない。疾病その他やむを得ない理由によって定期健康診断を受けることができなかった者は、その理由のなくなった後、速やかに受けなければならない。

附　則
この内規は、2024年４月１日から施行する。

外国の大学に留学する学生の取扱に関する内規

（設置）
第１条　本学の学部又は大学院の学生が、本学の教育課程の一環として同志社大学学則第27条の２、同志社大学大学院学則第20条の２、同志社大学専門職大学院学則第29条又は同志社大学法科大学院学則第15条により留学する場合は、この内規の定めるところによる。
（教育機関の定義）
第２条　この内規において外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育機関をいう。
２　外国の大学の調査認定は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が行う。
（留学の定義）
第３条　この内規において留学とは、本学の許可を受けて外国の大学に在学し、科目を履修し、又は研究指導を受けることをいう。
（条件）
第４条　この内規の適用を受けて留学する学生は、次の要件を満たさなければならない。ただし、大学院学生には適用しない。
⑴　本学に１年以上在学していること。
⑵　30単位以上修得していること。
２　前項第２号は、当該学部教授会の認める特別の事情がある場合には、適用しない。
（学籍）
第５条　この内規の適用を受けて留学する学生の本学学籍上の取扱は、在学留学とし、休学としない。ただし、学生が休学を認められ、外国の大学で学修する場合は、この内規は適用しない。
（期間）
第６条　在学中に留学できる期間は、１年以内とする。在学留学期間の算定は、留学先大学の別にかかわらず、当該教育課程における在学留学期間の通算にて行う。
２　当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、１年間を限度として、在学留学期間の延長を許可する。
（履修）
第７条　留学する大学での履修については、留学前に留学する大学の授業科目を検討した上、当該学部又は研究科の指導を受けなければならない。
（学生納付金）
第８条　この内規の適用を受けて留学する学生は、留学中所定の学生納付金を納入しなければならない。
（手続）
第９条　外国の大学に留学する学生で、この内規の適用を希望する場合は、在学留学願を当該学部長又は研究科長を経て学長に提出するものとする。
２　出発・帰国に際しては、留学出発・帰国届を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出しなければならない。
３　在学留学期間の延長を願い出る場合は、在学留学延長願を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出するものとする。
（単位認定）
第10条　単位認定を受けようとする者は、帰国後速やかに、次に掲げる必要書類（留学した大学の発行するもの）を添付した取得単位認定願を、当該学部長又は研究科長に提出するものとする。
⑴　成績証明書（時間数、単位数、科目名を明記したもの）
⑵　指導教員又はこれに準ずる教員の所見を記したもの
⑶　受講した科目の内容を説明した教授細目
⑷　大学履修要項
２　当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会は、関係機関と協議の上審議し、留学した大学での取得単位を学則の定めるところにより認定することができる。
（帰国後の登録及び履修）
第11条　留学した学生の帰国直後の春学期又は秋学期における登録及び履修については、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が出国時までの履修状況等を勘案し、特別の措置を講ずることがある。なお、設置科目によっては関係機関との協議を必要とする。
（事務）
第12条　この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際課が取り扱う。
（改廃）
第13条　この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附　則
この内規は、2026年４月１日から施行する。

同志社大学外国協定大学派遣留学生に関する内規

（目的）

第１条　この内規は、同志社大学外国協定大学派遣留学生制度を設け、本学の外国協定大学に学生を派遣し、もって本学建学の精神である国際主義を体得した学生を養成することを目的とする。

（定義）

第２条　この制度による外国協定大学派遣留学生（以下「派遣留学生」という。）とは、本学と外国の大学との大学間協定に基づき、学長の推薦により、外国の大学に留学する学生をいう。

（取扱）

第３条　派遣留学生として留学をする場合は、この内規によるほか、「外国の大学に留学する学生の取扱に関する内規」の定めるところによる。

（出願条件）

第４条　派遣留学生として出願できる学生は、学力、人物共に優秀で本制度の趣旨をよく理解し、留学年度の４月１日現在、学部２年次生以上の者又は大学院に在学中の者とする。

（義務）

第５条　派遣留学生として留学を希望する学生は、募集要項に定める出願書類を指定された期日までに提出しなければならない。

（推薦方法）

第６条　派遣留学生は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の推薦に基づき、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が候補者を決定し、留学先大学に推薦する。

（候補者の決定）

第７条　派遣留学生の最終決定は、留学先大学による当該留学生の受入決定に基づき、学長がこれを行う。

（留学期間）

第８条　留学期間は、留学先大学の正規の１年以内とする。ただし、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が外国協定大学への在学留学期間の延長を認めることがある。

（事務）

第９条　この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際課が取り扱う。

（改廃）

第10条　この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附　則

この内規は、2026年４月１日から施行する。

学 業 履 修 に つ い て

本学のカリキュラム（教育課程）は、各学部・学科の教育上の目的を達成するために、学部ごとに定められています。本学において卒業するためには、所定の単位を修得し、この課程を修めなければなりません。

各学部のカリキュラムに定める授業科目の登録・履修にあたっての詳細な説明・手続については、本要項および各学部ごとに作成されている『登録要領』を参照してください。なお、各授業科目の内容については『シラバス』を参照してください。

障がいのある学生への受講に対する配慮

身体、精神・発達等に障がいのある学生が、他の学生と等しい条件のもとで科目を受講できるよう、「合理的配慮」について検討します。

合理的配慮を希望される場合は、スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援センター（SDA センター）までご相談ください。

単 位 制

単位制とは、各学部ごとに定められた授業科目を登録･履修し、試験に合格することによりそれぞれの授業科目の所定の単位を得、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

現在の我が国の大学制度は単位制度を基本としており、下記に記載している学則のとおり、１単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。授業だけでなく、準備学習や復習の時間の重要性をよく理解しておくようにしてください。

卒業必要単位数は学部によって異なるので、所属学部の欄を参照してください。学部授業科目の単位数の計算は、次の基準によります（学則第９条 ３項 ４項）。

３　授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

（1）　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

（2）　実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

（3）　第１号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前２号に規定する基準を考慮して本学が定める。

４　前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

また、本学では、文部科学省令である大学設置基準や文部科学省通知に基づき、同志社大学学則第９条の５において、多様なメディアを高度に利用して教室等以外の場所で履修させる授業（遠隔授業）により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から６４単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができると定めています。シラバス等で表示される「学則第９条の５対象科目」の修得単位数の合計に留意して、履修計画を立てる必要があります（学則第９条の５）。

授 業 時 間

本学における授業時間は１講時について90分とし、これを２時間と計算しています。例えば、「春学期・週２時間」とは、春学期期間中に90分の授業が週１回行われるということであり、「秋学期・週４時間」とは、秋学期期間中に90分の授業が週２回行われるということです。

講　時	授　業　時　間
1	9：00 ～ 10：30
2	10：45 ～ 12：15
3	13：10 ～ 14：40
4	14：55 ～ 16：25
5	16：40 ～ 18：10
6	18：25 ～ 19：55
7	20：10 ～ 21：40

休　　講

授業は、学年暦によって行われますが、担当者の公務、出張、学会、病気などによって休講となる場合もあります。休講に関する情報は本学学修支援システム DUET（以下 DUET という）で確認することができます。急な休講や休講取消もありますので、DUET を適宜確認するようにしてください。なお、休講情報もなく、講義が始まらない場合は各キャンパスの教務センターへ申し出て、確かめるようにしてください。

補　　講

補講に関する情報は、DUET で確認することができます。日時、教室などをよく確認して受講してください。

集中講義

科目によっては、特定期間内に集中して行う講義（集中講義）があります。

授 業 教 室

(1) 学部授業時間割表は、科目登録･履修に必要な書類とともに、各自に配付されますが、それ以後の教室変更などは、DUET でお知らせしますので、よく注意してください。なお、秋学期開講科目の学部授業時間割表は、９月中旬にあらためて公開、配付します。

(2) 開講当初の授業教室は、学部授業時間割表に記載しています。授業教室は登録者数の増減により変更することがありますので、DUET で変更教室を確認のうえ、授業に出席してください。

(3) 授業教室名はすべて略号と教室番号で記載されています（次頁表）。例えば、京田辺校地の場合「１－201」は知真館１号館201番教室（２階)、「ＫＤ202」は恵道館202番教室（２階）を、また、今出川校地の場合「Ｚ地１（ＺＢ１)」は尋真館地下１番教室（地階)、「Ｓ32」は至誠館32番教室（３階）を表すものです。

(4) 授業教室は、臨時に変更することがあります。この場合は「臨時教室変更」として DUET でお知らせしますので、その講時のみ変更された教室で受講してください。

〔京田辺キャンパス〕

略　号	館　　名
（ＴＣ）１	知真館１号館
（ＴＣ）２	知真館２号館
（ＴＣ）３	知真館３号館
ＫＤ	恵　道　館
ＴＳ	頌　真　館
ＭＫ	夢　告　館
ＪＭ	情報メディア館
ＲＭ	ローム記念館
ＫＲ	交　隣　館
ＲＧ	理 化 学 館
ＩＮ	医　心　館
ＹＥ	有徳館西館
ＹＭ	有徳館東館
ＳＣ	至　心　館
ＫＣ	香　知　館
ＨＳ	報　辰　館
ＳＯ	創　考　館
ＣＧ	知　源　館
ＳＪ	知証館南館　心理学実験室
Ｄ	知証館南館　電気系実験実習棟
ＩＪ	知証館北館　機械系実験実習棟
ＭＳＩ	知証館北館　機械実習工場
ＭＳ２	実習工場別棟
ＨＣ	訪　知　館
ＢＪ	磐　上　館
ＫＨＨ	香柏館高層棟
ＫＨＬ	香柏館低層棟
ＤＶ	デイヴィス記念館
ＹＫ	山本覚馬記念アリーナ
ＴＷ	体育シャワー棟

〔今出川キャンパス〕

Ｎ	寧　静　館
Ｍ	明　徳　館
Ｓ	至　誠　館
Ｋ	弘　風　館
Ｇ	神　学　館
Ｆ	扶　桑　館
ＣＬ	クラーク記念館
Ｈ	博　遠　館
Ｔ	徳　照　館
ＫＥ	光　塩　館
ＲＹ	良　心　館

〔新町キャンパス〕

Ｚ	尋　真　館
Ｒ	臨　光　館
ＳＳ	新　創　館
ＫＳ	渓　水　館

〔烏丸キャンパス〕

ＳＫ	志　高　館

〔室町キャンパス〕

ＫＭＢ	寒　梅　館

〔大阪サテライト〕

ＯＳ	大阪サテライト

情報教室（京田辺キャンパス）

略　称	教　室　名	館　名
ＪＭ101	情報メディア館演習室１	情報メディア館１階
ＪＭ102Ａ～Ｃ	情報メディア館情報道場1~3	情報メディア館１階
ＪＭ201～206	情報メディア館201～206番教室	情報メディア館２階
ＪＭ301～306	情報メディア館301～306番教室	情報メディア館３階
ＪＭ402～406	情報メディア館402～406番教室	情報メディア館４階
ＴＳ101・102	頌真館101・102番教室	頌真館１階
TS202	頌真館202番教室	頌真館２階

情報教室（今出川キャンパス）

Ｋ21・22・25	弘風館21・22・25番教室	弘風館２階
RY307～315	良心館307～315番教室	良心館３階

情報教室（新町キャンパス）

Ｒ303・304	臨光館303・304番教室	臨光館３階

情報教室（烏丸キャンパス）

SK地１・地９	志高館地下１・地下９番教室	志高館地階

ＫＳＲ	継　志　寮

授業の録音・録画等について

科目担当者が事前に許可した場合を除き、次の行為を禁止します。

⑴授業の撮影（黒板・スクリーン等の撮影を含む）
⑵授業の録音・録画
⑶授業において配付した資料の複写
⑷視聴のためにサーバ等に保存した授業動画のダウンロード
⑸上記⑴～⑷により取得したものの第三者への譲渡・公開等

成績評価の方法について

本学の成績評価は、期末試験、期末試験以外の評価により、多面的に行います。

１．期 末 試 験

各学期末の定められた期間に行われる試験を期末試験といいます。期末試験は教室で行われるものとレポートを含みます。

２．期末試験以外の評価

期末試験以外の評価の方法には、レポート、小テスト、オンラインテスト、平常点等が含まれます。期末試験以外の評価は授業内で実施されるものだけでなく、授業時間外に取り組む課題も含まれます。

３．追　試　験

病気またはやむを得ない理由のために、期末試験または学部教授会が認める期末試験以外の評価を受けることができなかった場合に限り行われる試験を追試験といいます。受験希望者は以下の点に注意してください。

ａ．当該科目の試験日の翌日から起算して３日以内（窓口業務休止日を除く）に、追試験願を所属学部・研究科窓口に提出しなければならない。ただし、課外活動のために受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
ｂ．追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する以下の書類を添付しなければならない。
ｃ．追試験ごとに1,000円の追試験料を必要とする。ただし、裁判員制度および検察審査会制度を事由とする追試験については、追試験料を免除する。なお、追試験を未受験であった場合でも追試験料は返還しない。
ｄ．追試験は通常の試験と同等に評価される。減点はされない。
ｅ．レポートは追試験の対象にはならないが、提出締切日・時間に突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わなくなった場合は、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り、指示を受けること。
ｆ．追試験も何らかの事情により受験できなかった場合には、これに対する追試験は実施しない。

対象事由例	必要な証明書類
本人の病気、怪我	医師の診断書（試験当日安静が必要である旨の記載が必要） 学校感染症の場合は、大学所定の『「学校において予防すべき感染症」罹患証明書』でも可
親族（２親等内）の死亡 （適用期間は次のとおりとする。 ・死亡日を１日目として７日以内。 ・死亡前日を１日目として遡った３日以内。）	死亡診断書、会葬案内等
教育実習	免許資格課程センター事務室の証明書
介護等体験	免許資格課程センター事務室の証明書
館園実習	免許資格課程センター事務室の証明書
社会福祉援助、精神保健福祉援助に関する実習	社会学部・社会学研究科事務室の証明書
公認心理師に係る心理実習	心理学部・心理学研究科事務室の証明書
就職試験 （採用に関わらないインターンシップや説明会等は除く。）	企業等が発行する就職(採用)試験受験証明書(注)（大学所定用紙あり）
大学院入学試験	当該大学院が発行する受験証明書
正課科目のインターンシップ	キャリアセンター、または大学コンソーシアム京都が発行する証明書
大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目の定期試験	当該科目設置大学が発行する受験証明書
国家試験	当該試験の受験票
課外活動	事前届出に基づく学生支援センターの証明書
災害	被災証明書
路線の遅延、不通 （通学証明書に 記載された通学区間における路線の15分以上の延着の場合に限る。）	交通機関が発行する延着証明書
裁判員制度 ・裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加 ・裁判員、補充裁判員として職務に従事	裁判所が発行する証明書
検察審査会制度 ・検察審査員、補充員として職務に従事	検察審査会事務局が発行する証明書

（注）対象事由が発生した場合は、企業等に証明書の作成を依頼してください。依頼にあたり不明点等ある場合は、キャリアセンターに問い合わせてください。

4．期末試験に関する注意事項

受験上の注意

(1) 受験のためには次の条件を備えていることが必要です。
- a．有効な登録がなされた科目であること。
- b．学費納入が済んでいること。
- c．科目担当者の指定する条件を備えていること。なお、授業日数の３分の２以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取消すことがある。

(2) 試験場においては次のことを守らなければなりません。
- a．指定された試験場で受験すること。
- b．必ず学生証を持参し、机上に提示すること。万一、持参しなかった場合は、その試験の始まる前に学内証明書発行機(発行手数料200円）で仮学生証を発行すること。
- c．持込みを許された物以外はすべて鞄・袋などに入れること。なお、携帯電話（スマートフォンを含む)、パソコン（モバイルPC等を含む)、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等（以下「携帯機器類」という。）については、電源を切って鞄や袋などにしまうこと（携帯機器類は時計代わりの使用も認めない)。
- d．試験開始より15分以上遅刻したものは受験できない。また、試験開始後30分を経過するまでは退室できない。
- e．受験者は学生証と答案用紙の氏名との照合確認を受けること。
- f．答案用紙の学生ID、氏名は必ずペン書とする。
- g．試験を放棄する場合も答案用紙に学生ID、氏名を記入して提出すること。答案用紙を持ち帰ってはならない。
- h．その他すべて試験監督者の指示に従うこと。

(3) 次の場合には、その答案は無効とみなされることがあります。
- a．無記名の場合。
- b．指定された試験場で受験しなかった場合。
- c．氏名を訂正した場合。

(4) 次の行為は、不正行為として取り扱います。
- a．本人以外の者が、本人になりすまして試験を受けること。
- b．試験を受験するにあたって、机上や衣服、身体等に書き込みをすること。
- c．試験を受験するにあたって、持ち込みや使用を認められたものに書き込みをする等、本来の使用目的と異なる使い方をすること。
- d．試験時間中に、カンニングペーパー類や持ち込みを許可されていない参考書・ノート類を持ち込んだり、他の受験生の答案を見ること、他の人から答えを教わること。
- e．試験時間中に、答えを教える等の他の受験生を利するような行為をすること。
- f．答案用紙配付から回収までの私語や答案の見せ合い、交換をすること。
- g．その他、試験監督者の指示に従わないこと。

(5) 次の行為は、不正行為として取り扱う場合があります。
- a．試験時間中に、使用を認められていない用具を使用して解答すること。
- b．試験監督者の試験開始の指示の前に解答を始めること。
- c．試験監督者の試験終了の指示の後に、筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けていたりすること。
- d．試験場において、他の受験生の迷惑となる行為をすること。
- e．試験時間中に、携帯電話（スマートフォンを含む)、パソコン（モバイルPC等を含む)、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機能を有する機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等（以下「携帯機器類」という。）を身に付けていたり、指示された以外の場所・状態で保管していること。
- f．試験時間中に、携帯機器類･時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を鳴らすこと。
- g．その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

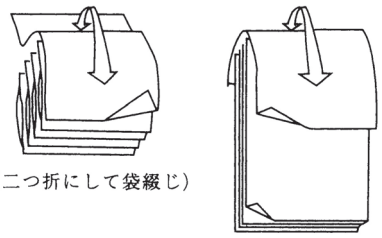
(6) 上記の(4)または(5)に該当する行為があって、当該学部教授会がそれを不正行為と認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格（2004年度生以降）または0点（2003年度生以前）とし、これを公表します（ただし、当該教授会が定める科目については除く)。

講　時	試　験　時　間
1	9：20～10：30
2	11：00～12：10
3	13：25～14：35
4	15：05～16：15
5	16：45～17：55
6	18：25～19：35
7	20：05～21：15

期末試験として実施するレポートの注意

(1) レポート提出時は、次のことに注意してください。
- a．レポートには所定の表紙（同志社生協で販売又は、https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/exam_type.html でダウンロード可）を付けること。
- b．表紙およびレポート受領書は、ペン書きのこと。
- c．学生証を持参のうえ、必ず本人が提出すること。郵送は認めない。
- d．提出締切日・時間に遅れたレポートは、受け付けない。ただし、提出締切日の突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わない場合、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り指示を受けること。
- e．一度提出したレポートは、提出締切日前であっても加筆・修正はできない。
- f．レポート受領書は、評価が出るまで大切に保管すること。

〈見本〉　原稿用紙　　レポート用紙



（二つ折にして袋綴じ）

(2) レポートに関する不正行為について

次の行為は、教授会が不正行為と認定した場合には学部一般内規に従って処分の対象とします。
- a．レポートの作成にあたって、事実やデータをねつ造、改ざんすること。また、他人の著作物やWEB上の情報等を参照・引用したにもかかわらず、引用部分の明示や出典の記載もなく、自身で作成したように記述すること。
- b．他人が作成したレポートを入手し自身が作成したものとして提出すること。

窓口受付時間（開講期間）

		月～金曜日	土曜日
今出川※	今出川キャンパス教務センター 文学部、法学部、経済学部、今出川校地教務課、免許資格課程センター事務室、全学共通教養教育センター事務室	9:00～11:30 12:30～17:00 総合窓口 8:40～17:00	総合窓口のみ 8:40～11:30 12:30～17:00
	新町総合窓口 社会学部事務室、政策学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00 総合窓口 8:40～17:00	閉　室
	神学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	
	商学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	
	グローバル地域文化学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	
	国際教育インスティテュート事務室 国際教養教育院事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉　室
京田辺※	京田辺キャンパス教務センター 生命医科学部、スポーツ健康科学部、心理学部、グローバル・コミュニケーション学部、免許資格課程センター事務室、京田辺校地教務課	9:00～11:30 12:30～17:00 総合窓口 9:00～17:00	閉　室
	文化情報学部事務室 理工学部事務室	9:00～11:30 12:30～17:00	閉　室

登録期間、休暇期間は受付時間が変わります。窓口受付時間が変更になる場合は、大学HP、掲示等によってお知らせします。
※ 教務センターの総合窓口では、一般的な質問の受付等を行います。

c．他人に依頼されてレポートを作成すること。
d．転記（電子データの複写・複製を含む）目的で、他人が作成したレポートの提供を受けることおよび自身が作成したレポートを他人に提供すること。
e．その他、レポートの公平性を損なう行為をすること。

(3) 科目の到達目標との関係から、レポートの作成にあたって生成AIの利用が禁じられたり、制限されることがあります。レポートの作成における生成AIの利用については、科目担当者の指示に従ってください。科目担当者の指示に従わなかった場合には、教授会が不正行為と認定し学部一般内規に従って処分の対象とすることがあります。

5．期末試験以外の評価について

期末試験以外の評価においても、評価の方法により、上記「4．期末試験に関する注意事項」が適用されることがあります。同様に、上記「3．追試験」の対象となることもあるので、詳細は所属の学部・研究科事務室窓口に照会してください。

学業成績

成績評価

(1) 2004年度生以降

a. 学業成績は以下の基準にしたがいA、B、C、D、Fの5段階で評価され、D以上が合格、Fが不合格です。就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には、D以上の評価を得た科目とその成績に加えて、履修した全ての科目のGPA（Grade Point Average）が記載されます。

判定基準

評価	評点	判　定　内　容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

b. GPAは、A～Fの段階で評価された全科目の評価を評点に換算して、その単位数で加重平均することによって算出されます。GPAの算出方法は次のとおりです。

$$GPA = \frac{(Ⓐ\times 4.0+Ⓑ\times 3.0+Ⓒ\times 2.0+Ⓓ\times 1.0+Ⓕ\times 0.0)}{(Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓕ)}$$

（Ⓐ～ⒻはA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計）

(2) 2003年度生以前

a．学業成績の評価は、100点満点で60点以上が合格、それに満たないものは不合格です。ただし、就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には優、良、可（英文の場合はA、B、C）による評価が使用されます。優（A）は100～80点、良（B）は79～70点、可（C）は69～60点です。

b．平均点は、合格点に達している科目の得点を、その単位数で加重平均することによって算出されます。加重平均の算出方法は次のとおりです。

$$平均点 = \frac{(各科目の得点\times 単位数)の合計}{総単位数}$$

成績発表

履修科目の成績は、春学期末（9月中旬）と秋学期末（3月中旬）に各自に通知します。それ以前の成績の照会には応じません。

採点質問

成績評価に関する質問や異議申し立てをしたい場合は、定められた成績通知日から1週間以内に、所属の学部・研究科窓口に採点質問票を提出してください。

不合格科目

(1) 2004年度生以降

F評価であった科目を再び履修してD以上の評価を得た場合は、直近のF評価についてのみGPAに算入されません。

ただし、一部の科目については取扱いが異なる場合がありますので、各学部の配布物等を参照してください。

(2) 2003年度生以前

不合格となった科目を再び履修して合格点を得た場合は、以前の不合格点は合格点に変更されます。

卒業の可否発表

卒業の可否の発表は2月下旬から3月上旬の卒業判定教授会終了後、各学生（父母住所宛）に通知します。それまでは、成績および卒業可否についての問合わせには一切応じません。

クレーム・コミッティ制度

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、所属の学部・研究科窓口に相談してください。学部・研究科で相談の内容を確認後、必要に応じて各学部等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

欠　席　届

授業に欠席し、その理由を科目担当者に伝える場合は、欠席届を利用します。欠席届の用紙は学部・研究科事務室または各キャンパス教務センターで配布していますので、必要事項を記入の上、科目担当者に直接提出してください。なお、欠席届は任意で提出するものですので、届出必要科目は各自で判断してください。

○提出の際の留意点

・欠席届は、欠席の事由を科目担当者へ伝える届です。本学には「公欠」の制度はありませんので、「追試験の対象となる事由」に該当する事由か否かにかかわらず、欠席届の取扱い（欠席扱いにしない・する等）は、担当者の判断に委ねられます。
・欠席の事由を客観的に証明する書類がある場合は、欠席届に添付して提出してください（コピーでも可）。
　例）病気の場合は「診断書」

※ ただし、欠席の事由が以下に該当する場合は、まずそれぞれの窓口に申し出て相談してください。

事由	相談窓口
学校感染症罹患による出席停止	所属の学部窓口
免許資格課程が必修としている正課科目の実習（教育実習、博物館実習、図書館演習）や介護等体験に参加	免許資格課程センター事務室（各キャンパス教務センター内）
資格取得に必修となっている正課科目の実習に参加、など	当該科目の設置学部・研究科事務室、所属の学部窓口
裁判員制度によるもの	所属の学部窓口
検察審査会制度によるもの	所属の学部窓口

路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う
授業・期末試験の実施について

路線が不通の場合や暴風警報、特別警報が発表された場合には、授業および期末試験の実施について以下の措置をとります。

Ⅰ．路線が不通の場合

・「１．対象となる路線」の定める条件に合致した場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。
・開通後は、「２．開通時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。
・該当交通機関の事故等による一時的な運転見合わせの場合には、平常どおり授業・期末試験を実施しますのでご注意ください。

１．対象となる路線

次のイ、ロ、ハのいずれかひとつの条件に合致する場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。

［今出川校地］

イ．京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
ロ．次表のａ～ｄの２以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間

［京田辺校地］

イ．京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
ロ．近鉄電車（京都～大和西大寺間）が全面不通の場合
ハ．次表のａ～ｅの２以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間
e	JR	木津～京橋間

２．開通時刻と授業・期末試験開始講時

開通後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

開通時刻	開始講時
６時 30 分までに開通	１講時から実施（平常どおり）
10 時 40 分までに開通	３講時から実施
15 時 55 分までに開通	６講時から実施
15 時 56 分時点で不通が継続中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

開通時刻	開始講時
6 時 30 分までに開通	1 講時（9 時 30 分）から実施（平常どおり）
10 時 00 分までに開通	2 講時（13 時 00 分）から実施
12 時 30 分までに開通	3 講時（15 時 30 分）から実施
12 時 31 分以後に開通	全講時実施しない

Ⅱ．暴風警報あるいは特別警報発表の場合

・「1．警報発表対象地域」に示す表の府県予報区、一次細分区域、市町村等をまとめた地域、または二次細分区域のいずれかひとつを対象に暴風警報あるいはなんらかの特別警報が発表された場合、発表時の次の講時から、その日の授業・期末試験の実施を中止します。

・ただし、発表された時点で、すでに実施中もしくは開始直前の授業・期末試験については、警報の緊急性等を考慮の上で、大学がその中止を判断します。

・特別警報が発表された場合、該当地域は非常に危険な状況にあります。特別警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。

・警報解除後、危険が回避されたことが確認された場合には、「2．警報解除時刻と授業･期末試験開始講時」により開始講時を決定します。ただし、状況判断の上、別途指示することがあります。

1．警報発表対象地域

府県予報区	一次細分区域	市町村等をまとめた地域	二次細分区域
京都府	南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
		京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
		山城中部	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
		山城南部	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村
大阪府	大阪府	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
		東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
		大阪市	大阪市
		南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
		泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

２．警報解除時刻と授業・期末試験開始講時

警報解除後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

警報解除時刻	開始講時
6 時 30 分までに解除	1 講時から実施（平常どおり）
10 時 40 分までに解除	3 講時から実施
15 時 55 分までに解除	6 講時から実施
15 時 56 分時点で警報が発表中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

警報解除時刻	開始講時
6 時 30 分までに解除	1 講時（9 時 30 分）から実施（平常どおり）
10 時 00 分までに解除	2 講時（13 時 00 分）から実施
12 時 30 分までに解除	3 講時（15 時 30 分）から実施
12 時 31 分時点で警報が発表中	全講時実施しない。

Ⅲ．Ⅰ、Ⅱにかかわらず、授業・期末試験を行うことが困難もしくは危険であると学長が判断した場合、休講・中止とすることがあります。

Ⅳ．Ⅰ．に定めた路線において計画運休の確定情報が発表された場合、不通となる路線に応じて、授業の休講、期末試験の中止などの措置をとることがあります。

Ⅴ．路線の不通や暴風警報・特別警報の発表、荒天・自然災害などにより、平常どおり授業・期末試験を行うことができない時には、大学 HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class 等を利用して、大学や授業担当者から、必要に応じた連絡を行います。
大学 HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class 等をこまめに確認してください。

以上

スポーツ健康科学部　教員名簿

電子メールアドレスは、[at] を @ に

氏　名	職　名	電子メールアドレス
相川　大輔	客員教授	daikawa[at]mail.doshisha.ac.jp
新井　彩	准教授	aarai[at]mail.doshisha.ac.jp
有吉　忠一	客員教授	cariyosh[at]mail.doshisha.ac.jp
海老根　直之	教授	nebine[at]mail.doshisha.ac.jp
福岡　義之	教授	yfukuoka[at]mail.doshisha.ac.jp
北條　達也（学部長）	教授	thojo[at]mail.doshisha.ac.jp
石井　好二郎	教授	kishii[at]mail.doshisha.ac.jp
石倉　忠夫	教授	tishikur[at]mail.doshisha.ac.jp
岩田　昌太郎（学生主任）	教授	siwata[at]mail.doshisha.ac.jp
井澤　鉄也	教授	tizawa[at]mail.doshisha.ac.jp
上林　清孝（研究主任）	教授	kkamibay[at]mail.doshisha.ac.jp
笠井　信一	助教	nkasai[at]mail.doshisha.ac.jp
河西　正博（教務［入学］主任）	准助教	mkawanis[at]mail.doshisha.ac.jp
松倉　啓太	准教授	kmatsuku[at]mail.doshisha.ac.jp
中村　康雄	教授	yanakamu[at]mail.doshisha.ac.jp
二宮　浩彰	教授	hninomiy[at]mail.doshisha.ac.jp
西牧　未央	助教	mnishima[at]mail.doshisha.ac.jp
小木曽　湧	助教	wogiso[at]mail.doshisha.ac.jp
大澤　晴太	特別任用助教	sosawa[at]mail.doshisha.ac.jp
庄子　博人	准教授	hishoji[at]mail.doshisha.ac.jp
髙倉　久志（教務主任）	准教授	htakakur[at]mail.doshisha.ac.jp
竹田　正樹	教授	mtakeda[at]mail.doshisha.ac.jp
田城　翼	助教	ttashiro[at]mail.doshisha.ac.jp
田附　俊一	教授	stazuke[at]mail.doshisha.ac.jp
若原　卓（教務［国際］主任）	教授	twakahar[at]mail.doshisha.ac.jp
柳田　昌彦	教授	myanagit[at]mail.doshisha.ac.jp

（アルファベット順に記載）

２０２６年度

学 部 学 年 暦

同 志 社 大 学

春 学 期　　17週（102日）

2026年

4月 1日	（水）	春学期始め・春学期入学式
2日	（木）	新入学生履修指導期間
3日	（金）	
4日	（土）	オンデマンド授業期間
5日	（日）	（DO Week）
6日	（月）	
7日	（火）	
8日	（水）	
9日	（木）	
10日	（金）	
11日	（土）	面接授業開始（注１）
28日	（火）	春学期学費納入最終日
4月29日	（水）	休日
～		
5月 5日	（火）	
6日	（水）	振替休日（授業日）
7月17日	（金）	面接授業最終日
18日	（土）	期末試験開始
20日	（月）	海の日（試験日）
31日	（金）	期末試験終了
8月 1日	（土）	期末試験予備日・夏期休暇開始
1日	（土）	春学期集中講義期間
～		
7日	（金）	
9月10日	（木）	夏期休暇終了
11日	（金）	在学生成績通知（注２）
20日	（日）	春学期終り
26日	（土）	春学期卒業式・学位授与式

※ 1週分のオンデマンド授業は、各学期の面接授業開始以降、成績評価を終えるまでに配信される。

（注１）２年次生以上は前年度３月の成績通知日以降、１年次生は入学式以降、この面接授業開始日までに、先行登録期間及び履修科目登録期間が設定される。

（注２）成績通知日以降、秋学期の面接授業開始日までに、先行登録期間及び履修科目登録変更期間が設定される。

（注３）成績通知日以降、翌年度４月の面接授業開始日までに、先行登録期間及び履修科目登録期間が設定される。

秋 学 期　　18週（108日）

9月21日	（月）	秋学期始め・秋学期入学式
25日	（金）	オンデマンド授業期間
26日	（土）	（DO Week）
27日	（日）	
28日	（月）	
29日	（火）	
30日	（水）	
10月 1日	（木）	
2日	（金）	面接授業開始
12日	（月）	スポーツの日（授業日）
30日	（金）	秋学期学費納入最終日
31日	（土）	同志社クローバー祭
11月 1日	（日）	
1日	（日）	スポーツフェスティバル
3日	（火）	文化の日（授業日）
23日	（月）	勤労感謝の日（授業日）
26日	（木）	創立記念行事週間（休講）
27日	（金）	
28日	（土）	
29日	（日）	創立記念日（休日）
12月25日	（金）	キリスト降誕日(休日)・冬期休暇開始

2027年

1月 6日	（水）	冬期休暇終了
7日	（木）	面接授業再開
11日	（月）	成人の日（休日）
18日	（月）	面接授業最終日
19日	（火）	期末試験開始
23日	（土）	創立者永眠の日
2月 8日	（月）	期末試験終了
12日	（金）	秋学期集中講義期間
～		
18日	（木）	
3月上旬		卒業可否通知
9日	（火）	在学生成績通知（注３）
20日	（土）	秋学期卒業式・学位授与式
21日	（日）	
22日	（月）	
31日	（水）	秋学期終り

2026年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	●29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
●3	●4	●5	●6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	●20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	●11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	●21	●22	●23	24	25	26
27	28	29	30			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	●12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	●3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	●23	24	25	26	27	28
29	30					

2027年

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月

日	月	火	水	木	金	土
					●1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	●11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	●11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	●23	24	25	26	27
28						

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
●21	●22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●印は「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
授業時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:10～14:40	14:55～16:25	16:40～18:10
	Ⅵ	Ⅶ			
	18:25～19:55	20:10～21:40			

学びのデザインのヒント　～いま、興味関心があることを様々な視点でアプローチ～

このヒントの活用法について
①「健康科学」「トレーニング科学」「スポーツ・マネジメント」の学修領域にとらわれず、学びのテーマを持って履修するためのヒントを　　提供するものです。あくまでも学びをデザインするのはあなた自身です。
②学びのテーマが複数あっても構いません。
③科目名の前の数字は「科目配当年次」をあらわしています。

≪学びの目標≫

知識　スポーツ健康科学に関する知識と理論を体系的に理解できるようになる

態度　健康やスポーツに関わる問題を発見し、解決策を探求できるようになる

技能　専門的立場から健康やスポーツに寄与・貢献できるようになる

トップアスリートのポテンシャル（潜在能力）を器官・細胞・分子といったミクロなレベルから考えたい

■推奨選択科目
A群（基幹科目）2 トレーニング論

B群（展開科目）1 スポーツ機能解剖学
2 人体の構造と機能Ⅰ、2 スポーツ生体ダイナミクス、
2 生命医科学概論
2 スポーツ生化学＊
2 スポーツ分子生物学＊

D群（隣接科目）1 スポーツ健康科学のための自然科学入門A、
1 スポーツ健康科学のための自然科学入門B
2 生物学
3 生化学

心身の健全な管理のあり方を運動や栄養との関わりから考えたい

■推奨選択科目
A群（基幹科目）1 健康運動論
2 公衆衛生学

B群（展開科目）2 生活習慣病概論、2 栄養学、
2 スポーツ栄養学、2 スポーツ医学A（内科系）
3 健康教育学、2 スポーツ生化学＊、
3 精神保健論、2 スポーツ分子生物学＊

D群（隣接科目）3 内科学概論、3 臨床医学概論2

スポーツや運動の指導・教育を実際の現場で実践できるようになりたい

■推奨選択科目
A群（基幹科目）2 スポーツ運動学、2 トレーニング論、2 スポーツ教育学

B群（展開科目）2 コンディショニング論、2 スポーツ心理学、
2 メンタル・トレーニング論、2 コーチング論、2 発育発達と老化
3 高齢者スポーツ論、3 障がい者スポーツ指導論、
3 スポーツマッサージ・テーピング論、2 環境生理学＊

C群（応用科目）1 スポーツ方法実習※、2 スポーツ指導法実習※
～※4年を通じて多様な種目から選択～

D群（隣接科目）1 発達と学習の心理学、
2 学校心理学（教育・学校心理学）、
2 健康心理学（健康・医療心理学）

障がいのある人や高齢者などの体力が低い人たちでも参加できるスポーツの普及や振興について考えたい

■推奨選択科目
A群（基幹科目）1 スポーツ政策論、1 健康運動論

B群（展開科目）2 障がい者スポーツ論、2 障がい者スポーツ論（応用）、
2 スポーツ行政論、2 発育発達と老化、
2 スポーツ医学B（外科系）
3 障がい者スポーツ指導論、3 高齢者スポーツ論、
3 リハビリテーション医学

C群（応用科目）1 スポーツ方法実習※、2 スポーツ指導法実習※
～※4年を通じて多様な種目から選択～

D群（隣接科目）1 現代社会論

スポーツを取り巻く社会環境の整備・充実の方策やスポーツビジネスについて考えたい

■推奨選択科目
A群（基幹科目）1 スポーツ政策論、2 公衆衛生学

B群（展開科目）2 スポーツ行政論、2 スポーツ組織文化論、
2 スポーツ・マーケティング論
3 スポーツ経済学、2 ス ポーツビジネス論＊、
2 スポーツ・マネジメント論＊、3 競技者育成システム論、
3 スポーツ・メディア論

D群（隣接科目）1 現代社会論

各競技特有の動きの仕組みや運動学習による動きの効率化を考えたい

■推奨選択科目
A群（基幹科目）2 スポーツ運動学

B群（展開科目）1 スポーツ機能解剖学
2 スポーツ・バイオメカニクス、2 人体の構造と機能Ⅰ、
2 スポーツ測定評価論、2 スポーツ心理学、2 身体運動制御論、
2 スポーツ生体ダイナミクス

C群（応用科目）1 スポーツ方法実習※、2 スポーツ指導法実習※
～※4年を通じて多様な種目から選択～

D群（隣接科目）1 スポーツ健康科学のための自然科学入門A、
1 スポーツ健康科学のための自然科学入門B
2 学習心理学（学習・言語心理学Ⅰ）

注）＊が付されている科目は、2023年度以前生は3年次配当です。

自分の学びをデザインしてみよう！

①あなたの学びのテーマを、記入しましょう。
②学びのテーマを充実させるために必要な科目を考え、○を付けて行きましょう。科目で扱う内容はシラバスで調べましょう。
③学びのテーマが複数ある場合は記入の色を変えて①②を繰り返してみましょう。
　完成した学びのデザインを今後の履修計画に役立ててください。

学びのテーマ

		科目名				
【必修科目】						
基礎科目 12単位必修	1年次～ 2年次～	ファースト・イヤー・セミナー 基礎実習	スポーツ健康科学論入門	生理学	スポーツ生理学	スポーツ社会学
演習科目 14単位必修	3年次～ 4年次～	演習Ⅰ 演習Ⅲ	演習Ⅱ 演習Ⅳ	卒業研究A（3単位）	卒業研究B（3単位）	
【選択科目】						
A群(基幹科目) 6単位以上必要	1年次～ 2年次～	スポーツ政策論 公衆衛生学	健康運動論 スポーツ運動学	トレーニング論	スポーツ教育学	
B群（展開科目） 22単位以上必要	1年次～ 2年次～	スポーツ機能解剖学 生命医科学概論	人体の構造と機能Ⅰ	スポーツ医学A（内科系）	スポーツ医学B（外科系）	生活習慣病概論
		発育発達と老化	栄養学	スポーツ栄養学	スポーツ・バイオメカニクス	コンディショニング論
		スポーツ心理学	スポーツの原理	障がい者スポーツ論	障がい者スポーツ論（応用）	学校保健
		スポーツ統計情報処理	スポーツ倫理学	スポーツ・トピックス1	スポーツ・トピックス2	コーチング論
		スポーツ行政論	インターンシップ演習	スポーツ組織文化論	スポーツ測定評価論	メンタル・トレーニング論
		スポーツ・マーケティング論	身体運動制御論	スポーツ生体ダイナミクス	スポーツ健康科学グローバル演習	スポーツビジネス論＊
		スポーツ生化学＊	スポーツ・マネジメント論＊	環境生理学＊	スポーツ分子生物学＊	
	3年次～	ヒトの病理と防御システムⅠ	薬理学	健康教育学	リハビリテーション医学	精神保健論
		競技者育成システム論	スポーツ経済学		スポーツ人類学	スポーツ・メディア論
		高齢者スポーツ論	スポーツ健康外国書講読Ⅰ	スポーツ健康外国書講読Ⅱ		
		障がい者スポーツ指導論	スポーツ健康科学特殊講義A	スポーツ健康科学特殊講義B	スポーツマッサージ・テーピング論	
C群(応用科目)Ⅰ類 4単位以上必要	1年次～ 2年次～	スポーツ方法実習（1単位） スポーツ指導法実習（1単位）				
C群(応用科目)Ⅱ類	1年次～ 2年次～	スポーツ健康科学特殊講義S スポーツ健康科学応用演習				
D群(隣接科目)	1年次～	スポーツ健康科学のための自然科学入門A		スポーツ健康科学のための自然科学入門B		現代社会論
		児童福祉論Ⅰ	児童福祉論Ⅱ	福祉社会論		発達と学習の心理学
	2年次～	生物学	学習心理学（学習・言語心理学Ⅰ）	生理心理学（神経・生理心理学）	生理心理学（神経・生理心理学Ⅰ）	学校心理学（教育・学校心理学）
		健康心理学（健康・医療心理学）				
	3年次～	生化学	内科学概論	外科学概論（病態生理学）	臨床医学概論2	臨床医学概論3
		臨床解剖学概論				

注)スポーツ方法実習、スポーツ指導法実習、卒業研究A、卒業研究B以外の科目は2単位です。
　＊が付されている科目は、2023年度以前生は3年次配当です。

発行　同志社大学スポーツ健康科学部

〒610-0394　京田辺市多々羅都谷1-3

2026年4月1日

DOSHISHA UNIVERSITY